Kodak

# i5000 シリーズスキャナー

## TWAIN アプリケーション用
## スキャンセットアップガイド

A-61671_ja

# TWAIN データソースの使用

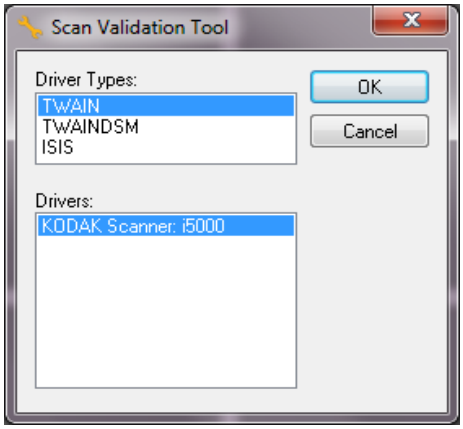

[Scan Validation Tool] の起動 ..... 2
[Scan Validation Tool] ダイアログボックス ..... 3
TWAIN データソースの使用 ..... 5
開始方法 ..... 5
[ 設定 ] ショートカットの変更または作成 ..... 6
スキャナーメインウィンドウ ..... 8
イメージ設定ウィンドウ ..... 12
　プレビューウィンドウ ..... 13
　[ 一般 ] タブ ..... 15
　[ サイズ ] タブ ..... 17
　[ 調整 ] タブ：白黒 ..... 20
　[ 調整 ] タブ：カラー / グレースケール ..... 22
　[ 拡張機能 ] タブ ..... 25
　[ 検知 ] タブ ..... 30
詳細イメージセットアップ ..... 32
　[ 詳細 ] タブ ..... 32
　[ 書類タイプの設定 ] タブ ..... 35
原稿の内容に基づくカラー / グレースケールまたは白黒イメージの作成 ..... 37
書類の各面に対する複数イメージの作成 ..... 39
書類の各面に対する複数設定の作成 ..... 41
デバイス設定ウィンドウ ..... 43
　デバイス - [ 一般 ] タブ ..... 44
　デバイス - [ スタッキング ] タブ ..... 49
　　スタッキングオプションを使用する場合の推奨構成 ..... 51
　デバイス - [ インデックス ] タブ（i5850 スキャナーのみ） ..... 55
　デバイス - [ プリンタ ] タブ ..... 58
　デバイス - [ 重送検知 ] タブ ..... 62
　デバイス - [ バッチ ] タブ ..... 66
　デバイス - [ パッチ ] タブ ..... 68
[ 診断 ] ウィンドウ ..... 70
　診断 - [ 一般 ] タブ ..... 71
　診断 - [ デバッグ ] タブ ..... 72
　診断 - [ ログ ] タブ ..... 73


本ガイドでは TWAIN/TWAINDSM データソースの使用手順やスキャナーの機能について説明します。同じ機能は、使用しているスキャンアプリケーション（例：*Kodak* Capture Pro Software）のユーザーインターフェイスでも利用できます。

本ガイドでは、デフォルトの TWAIN データソースインターフェースについて説明します。ご使用のアプリケーションで、目的に合わせて TWAIN データソースのユーザインターフェースを変更することができます。アプリケーションプロバイダが TWAIN データソースのインターフェースをカスタマイズしている場合は、このガイドで説明しているデフォルト画面とは異なる場合があります。

## [Scan Validation Tool] の起動

1. **[ スタート ]>[ プログラム ]>[Kodak]>[ 原稿のイメージング ]>[Scan Validation Tool]** を選択します。

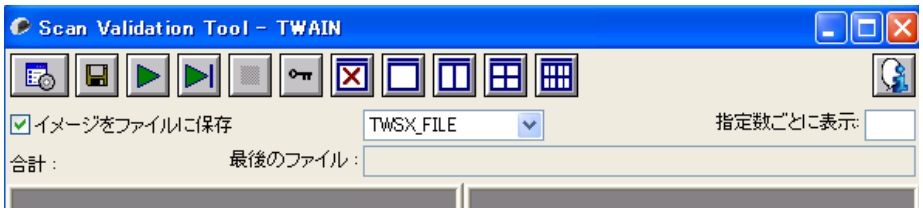



2. [ ドライバの種類 ] で **[TWAIN/TWAINDSM]**（または **[ISIS]**）を選択し、[ ドライバ ] で **[*Kodak* Scanner i15000 Scanner]** を選択します。

   ドライバの種類は次を含みます :

   - **TWAIN** - Windows 提供の twain_32.dll を通じて TWAIN インタフェイスを使用します。twain_32.dll が Windows フォルダにある場合のみ、このオプションは使用できます。
   - **TWAINDSM** - TWAIN ワーキンググループ 2.x Data Source Manager (DSM) を通じて TWAIN インタフェイスを使用します。TWAINDSM.dll が Windows システムフォルダにある場合のみ、このオプションは使用できます。
   - **ISIS** - ISIS インタフェイスを使用。PIXDFLTN.DLL が Windows 32 ビットシステムフォルダにある場合のみ、このオプションは使用できます。

   [Scan Validation Tool（スキャン バリデーション ツール）] ダイアログボックスが表示されます。

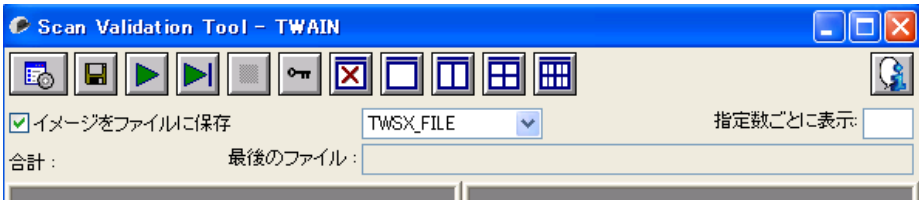



3. いずれかの [ イメージ表示モード ] ボタンを選択し、イメージプレビューパネルを表示します。



## [Scan Validation Tool] ダイアログボックス

Scan Validation Tool は Kodak が提供する診断アプリケーションです。SVT のユーザインターフェイスを使用すると、スキャナーのすべての機能にアクセスできるので、スキャナーが正常に動作しているかどうか効率的にチェックできます。Scan Validation Tool では、TWAIN/TWAINDSM データソースおよび ISIS ドライバを使用してスキャナ機能を検証できます。




**イメージをファイルに保存** - イメージは指定したディレクトリに保存されます。

**指定数ごとに表示** - スキャン中に、表示するイメージのサンプリングレートを入力します。たとえば、すべてのイメージを表示する場合は「1」を入力します。イメージを 10 個おきに表示する場合は「10」を入力します。

**合計** - 現在の [Scan Validation Tool]（スキャン検証ツール）セッション中に、スキャンされたイメージの総数を表示します。

- TWAIN データソース（あるいは ISIS ドライバ）にアクセスするには、[Scan Validation Tool] ダイアログボックスの**セットアップ**アイコンをダブルクリックして、メインスキャナウィンドウにアクセスします。

**最後のファイル** - 最後に保存されたイメージの完全パスとファイル名を表示します。

**[ ツールバー ] ボタン** .



**セットアップ** - 選択されたドライバ用のユーザインタフェースを表示します。



**保存先** - スキャンしたイメージを保存するディレクトリとファイル名を選択します。このオプションは、**[ イメージをファイルに保存 ]** を選択した場合に利用できます。



**スキャン開始** - 入力トレイにある原稿をスキャンします。



**1 ページスキャン** - 1 ページだけスキャンします。



**停止** - スキャンを終了します。



**ライセンスキー** - [ ライセンスキー ] ウィンドウを表示します。



**表示モード（画像なし）** - イメージビューアウィンドウを閉じます（イメージは表示されません）。



**表示モード（1 画像）** - 1 回に 1 枚のイメージを表示します。



**表示モード（2 画像）** - 1 回に 2 枚のイメージを表示します。



**表示モード（4 画像）** - 1 回に 4 枚のイメージを表示します。



**表示モード（8 画像）** - 1 回に 8 枚のイメージを表示します。



**ドライバを変更 / 開く** - 現在開いているドライバを閉じ、[ ドライバ選択 ] ウィンドウを表示します。



**バージョン情報** - [ バージョン情報 ] ウィンドウを表示します。




**転送モードセレクタ** - *TWAIN 専用*。上級ユーザ向けです。Scan Validation Tool を使用する際、**[ メモリ ]** または **[ ファイル転送 ]** 方法を選択できます。




**UI セレクターの表示** - これは、テクニカルサポートが使用する詳細オプションです。

## TWAINデータソースの使用

*Kodak* i5000 シリーズスキャナーは、さまざまなイメージを提供できます。そのためには、お使いのスキャンアプリケーションと連携動作する、TWAIN データソースを使用します。TWAIN データソースはスキャンアプリケーションにスキャナーをリンクさせるスキャンシステムの一部です。

TWAIN データソースを使用すると、スキャナーメインウィンドウに設定のショートカットが一覧表示されます。それぞれの [ 設定のショートカット ] は特定のイメージとデバイス設定のグループです。[ 設定のショートカット ] には、さまざまな原稿に対応する、一連の出力設定が定義されています。いずれの [ 設定のショートカット] も希望に満たない場合は、カスタマイズした設定のショートカットを作成できます。たとえば、「請求書」という名前の設定ショートカットを作成し、請求書をスキャンする場合は [ 設定のショートカット] を選択するだけでスキャンできます。詳細は、この章の後半にある「新しい設定のショートカットの作成」および「イメージ設定の変更」を参照してください。

注：ISIS ドライバを使用している場合は、*『ISIS ドライバのスキャン セットアップガイド』* (A-61672) で詳細を参照してください。

## 開始方法

最終的な目的は、できるだけ簡単にスキャン処理を実行することにあります。*スキャナーメインウィンドウ*から [ 設定のショートカット ] を選択し、**[OK] ／ [ スキャン ]** を選択するだけで実行できます。

このスキャナーでは既にいくつかの [ 設定のショートカット ] が定義されています。ほとんどの場合、これらのショートカットで必要なすべての作業を実行できます。別の設定が必要な場合は、独自のショートカットを作成する必要があります。作成したショートカットは [ 設定のショートカット ] のリストに追加され、以降のスキャンに使用できます。

設定するオプションの大半は、以下の 2 つのウィンドウにあります。

- **イメージ 設定**：スキャナーメインウィンドウの **[ 設定 ]** ボタンをクリックすると、メージ設定ウィンドウが表示されます。このウィンドウの [ 一般 ]、[ サイズ ]、[ 調整 ]、[ 拡張機能 ]、[ 検知 ] タブを使って、イメージ処理パラメータを設定することができます。また、**[ デバイス ]** ボタンをクリックしてデバイス設定を行ったり、**[ 詳細イメージセットアップ ]** アイコンをクリックして詳細設定ができます。
- **デバイス**設定：[ デバイス ] ボタンは、イメージ設定ウィンドウにあります。**[ デバイス ]** を選択すると、[ 一般 ] タブや [ 重送パッチ ] タブが表示されます。他のタブ（スタッキング、印刷など）は、以前にインストールしたアクセサリによって表示される場合があります。デバイス設定ウィンドウでは、[ 診断 ] にアクセスすることもできます。

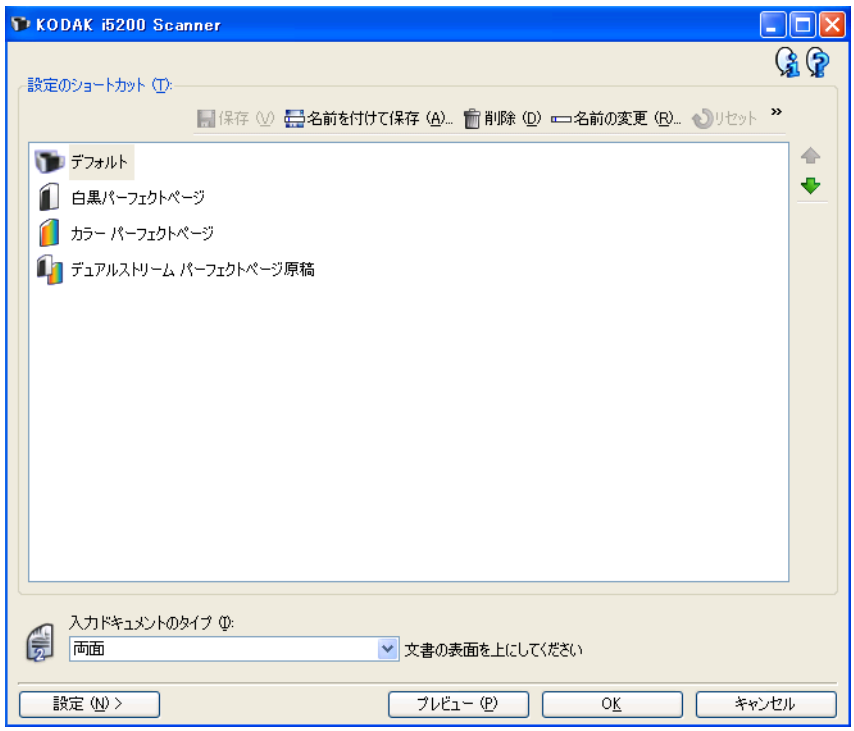
以降の手順は、ショートカットの設定方法について説明しています。スキャナーウィンドウとタブの各機能とオプションの詳細な説明は、「スキャナーメインウィンドウ」を参照してください。

注：設定のショートカットの設定が、スキャンアプリケーションの設定に優先することがあります。このような場合、選択したショートカットがスキャナーメインウィンドウに表示され、その隣に、*<[ 変更済み ]>* という文字が表示されます。設定のショートカットを使用せず、まず個人設定をスキャナーにダウンロードしてから、TWAIN データソースにアクセスするアプリケーションで、このような状況が発生します。

**[OK]** をクリックしてスキャンを開始すると、設定の変更を保存するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。設定のショートカットを使わないアプリケーションを利用する場合は、この質問に対して **[ いいえ ]** を選択してから、スキャンを行ってください。

## [ 設定 ] ショートカットの変更または作成

スキャナーメインウィンドウから、以下の作業を行います。




1. [ 設定のショートカット ] リストから、あらかじめ定義されている設定のショートカットを選択します。目的のイメージ出力に最適な [ 設定のショートカット ] を選択することを推奨します。
2. *[ 入力ドキュメントのタイプ ]* ドロップダウンリストから、原稿の表面か、裏面、または両面のイメージを作成するかを選択します。
3. スキャナーメインウィンドウで **[ 設定 ]** を選択します。イメージ設定ウィンドウの [ 一般 ] タブが表示されます。

4. [ 一般 ] タブで適切なオプションを選択します。

   注：必要な場合は、他のタブで各設定を確認し、変更します。

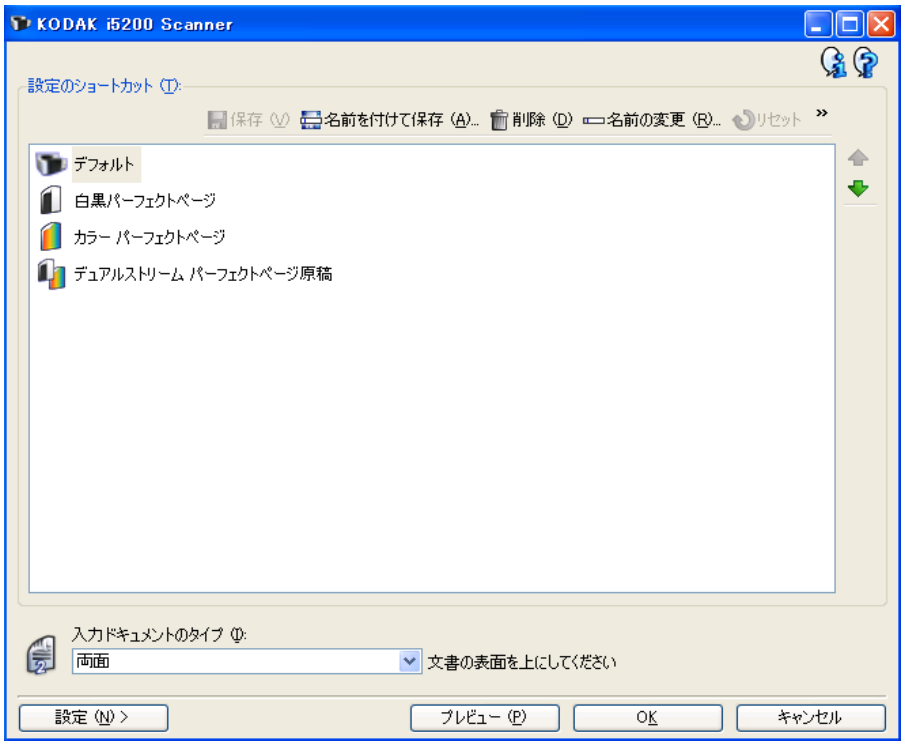
5. スキャナーの入力エレベータに原稿を 1 枚セットします。
6. 選択したオプションによってどのようにイメージがスキャンされるかを確認するには、**[ プレビュー ]** をクリックします。

   注：表示されたイメージの品質に満足できない場合は、別のショートカットを利用して設定を変更するか、イメージ設定ウィンドウの他のタブで設定内容を更に調整します。

7. イメージ設定ウィンドウの **[ デバイス ]** を選択して目的のデバイス設定を選択します。
8. 各タブで、スキャナーに実行させる適切なオプションを選択します。
9. **[ ホーム ]** をクリックしてスキャナーメインウィンドウに戻ります。
10. **[ 名前を付けて保存 ]** を選択して [ 名前を付けて保存 ] ウィンドウを表示するか、**[ 保存 ]** をクリックして同じ名前で [ 設定 ] ショートカットを保存します。
11. 判別しやすい設定の新しいショートカット名を入力して、**[ 保存 ]** をクリックします。

## スキャナーメインウィンドウ

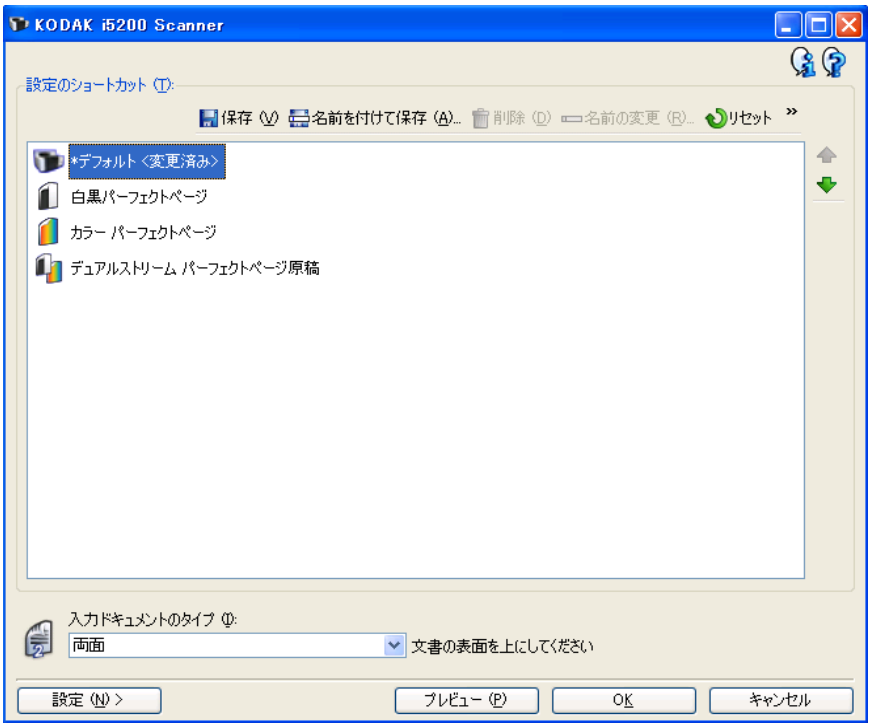
スキャナーメインウィンドウはスキャナーのユーザインターフェイスのホームウィンドウです。[ 設定のショートカット ]、**[OK]** ／ **[ スキャン ]** の順に選択するだけでスキャンできます。




**[ 設定のショートカット ]** - 現在定義されている設定のショートカットが一覧表示されます。次のショートカットが用意されています。

- **デフォルト** - スキャナーのデフォルト設定
- **白黒パーフェクトページ**
- **カラーパーフェクトページ**
- **デュアルストリームパーフェクトページ原稿**

注：[ 設定のショートカット ] を変更してその変更を保存していない場合、[ 設定のショートカット ] に *<[ 変更済み ]>* という文字が付加されます。




**入力ドキュメントのタイプ** - ドキュメントのどちらの面のイメージを出力するかを選択できます。

- **両面**：原稿の両面をスキャンします。
- **片面 - 表**：原稿の表面をスキャンします。
- **片面 - 裏**：原稿の裏面をスキャンします。

注：入力エレベータではスキャンするドキュメントの面を上にセットしてください。

**アイコン**

| | |
|---|---|
|  | **保存** - 選択した [ 設定のショートカット ] に対して行った変更を保存します。 |
|  | **名前を付けて保存** - [ 名前を付けて保存 ] ウィンドウが表示され、現在の設定を新しい [ 設定のショートカット ] として保存します。 |
|  | **削除** - 選択した [ 設定のショートカット ] を削除します。この場合、確認を求めるメッセージが表示されます。これはユーザーが作成したショートカットに対してのみ使用できます。 |
|  | **名前の変更** - [ 設定のショートカット ] の名前を変更します。これはユーザーが作成したショートカットに対してのみ使用できます。 |
|  | **リセット** - 選択した [ 設定のショートカット ] への保存していない変更を元に戻すことができます。 |
|  | **復元** - [ 復元 ] ウィンドウを表示して、予め用意されたショートカットに対して行った変更を元に戻すことができるようにします。これは、1 つ以上の付属のショートカットが変更または削除されている場合にのみ利用できます。 |
|  | **インポート** - 別の [ 設定のショートカット ] のセットをインポートして、現在の全てのショートカットを置換します。このオプションを選択すると、OS の [ ファイルを開く ] ウィンドウが表示され、インポートするショートカットセットのファイルを選択できます。 |
|  | **エクスポート** - 現在のすべての設定のショートカットをショートカットセットにエクスポートします。このオプションを選択すると、OS の [ 名前を付けて保存 ] ウィンドウが表示され、ショートカットセットのファイル名を指定できます。 |
|  | **上に移動** - 選択した設定のショートカットを、リスト中の 1 つ上の場所に移動します。再度移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。 |
|  | **下に移動** - 選択した設定のショートカットを、リスト中の 1 つ下の場所に移動します。 |

注：

- **削除、名前の変更、復元、インポート、エクスポート**は、選択した [ 設定のショートカット ] が変更中の場合には使用できません。
- 再度移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。
- 別の PC に設定のショートカットを転送する場合 : 転送したいショートカットがある PC から、**[ エクスポート ]** を選択し、別の PC から **[ インポート ]** を選択します。
- 現在のショートカットセットに [ 設定のショートカット ] を追加する場合：
  1. **インポート**を選択してショートカットセットをロードします。
  2. 新しく [ 設定のショートカット ] を作成します。
  3. ショートカットセットを置き換えるには**エクスポート**を選択して同じ名前で保存する必要があります。

**設定** - [ イメージ設定 ] ウィンドウで、選択した [ 設定のショートカット ] を変更することができます。このウィンドウから、デバイス設定および診断ウィンドウにアクセスできます。

**プレビュー** - スキャンを開始して、イメージ設定ウィンドウのプレビューウィンドウにスキャンされたイメージが表示されます。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

**OK ／スキャン** - このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注：このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

**キャンセル** - 変更内容を保存せずに、スキャナーメインウィンドウを閉じます。

**情報アイコン**



**バージョン情報**：スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。



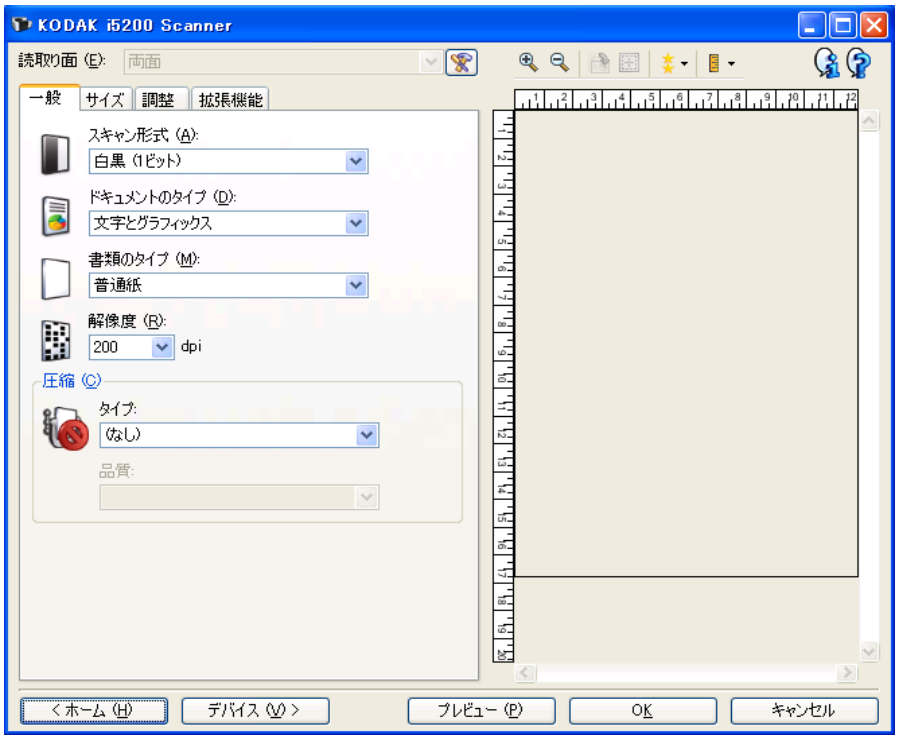
**ヘルプ**：現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。

## イメージ設定ウィンドウ

このウィンドウから、利用可能なタブを使用してイメージ処理オプションを定義できます。イメージ設定に使用される値は、選択された設定のショートカットに保存されます。[ イメージ設定 ] ウィンドウにはデフォルトで一般、サイズ、調整（カラー / グレースケールと白黒）、拡張機能、および検知の各タブがあります。

ここでは、（Scan Validation Tool で表示される）TWAIN のデフォルトインターフェースについて説明します。ホストアプリケーションは一部のタブを非表示にしたり、表示されるオプションを制限することで、インターフェースを変更できます。

**読み取り面** - 設定する読み取り面とイメージを選択できます（例：表面、裏面、両面：カラー（24 ビット）など）。すべてのイメージ設定は、選択されたイメージに適用されます。




注：*[ 読取り面 ]* オプションは、詳細設定が [ 詳細 ] タブで選択された場合のみ利用できます。

**詳細イメージセットアップ**：[ 詳細 ] タブを表示します。

**[ ツールバー ] ボタン**

| | |
|---|---|
|  | **ズームイン**：プレビュー領域に現在表示されているイメージを拡大します。 |
|  | **ズームアウト**:プレビューウィンドウに現在表示されているイメージを縮小します。 |
|  | **アウトラインを回転**：アウトラインを 90 度回転します。<br>注：このオプションは、回転されたアウトラインがスキャナーの最大幅までに適合する場合のみ使用できます。 |
|  | **アウトラインを中央に配置**：アウトラインがスキャナーの最大幅の中央に配置されるように、アウトラインの X 原点を調整します。 |
|  | **プレビューの品質**：スキャン画像の品質を選択します。<br>• **通常**：イメージを低解像度で表示します。<br>• **高**：実際のイメージにもっとも近い品質で表示します。このオプションを選択した場合、[ プレビュー ] ウィンドウに表示されるイメージは、最終的に出力されるイメージに近いものになります。<br>注：原稿の内容に応じて、イメージが実際のように表示されるよう、拡大表示する必要がある場合があります。 |
|  | **単位**：スキャナーの測定値の単位を選択します。これには、プレビューウィンドウとサイズ関連オプションが含まれます。[ 単位 ] オプションは、**[ インチ ]**、**[ センチメートル ]**、**[ ピクセル ]** が使用できます。 |

**プレビューウィンドウ**

プレビュー領域ウィンドウに表示されるイメージは、現在のショートカット設定に基づくサンプルです。プレビュースキャンの実行後に、このウィンドウにイメージが表示されます。

**アウトライン** - **[ 原稿：マニュアル指定 ]** または **[ イメージ：ドキュメントの一部 ]** を [ サイズ ] タブから選択すると、現在の [ アウトライン ] 選択項目が表示されます。アウトラインがプレビューイメージと位置が合っていない場合は、マウスを使用してアウトラインのサイズと位置を調整できます。マウスのカーソルをアウトラインの回りで動かすとカーソルが変化し、マウスの左ボタンを押し続けるとアウトラインを変更できます。

- **移動**：カーソルをアウトライン内に置くと、アウトラインの位置を調整できます。
- **角**：グラフィックの四隅の 1 つにカーソルを置くと、2 つの辺を同時に調整できます。



- **辺**：グラフィックの四辺の 1 つにカーソルを置くと、その辺を調整できます。



- **回転** : 回転のグラフィックの上にマウスカーソルを置くと、アウトラインの角度を調整できます。



**ホーム** - スキャナーメインウィンドウに戻ります。

**デバイス** - [ デバイス設定 ] ウィンドウを表示します。

**プレビュー** - スキャンを開始して、プレビューウィンドウにイメージを表示します。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

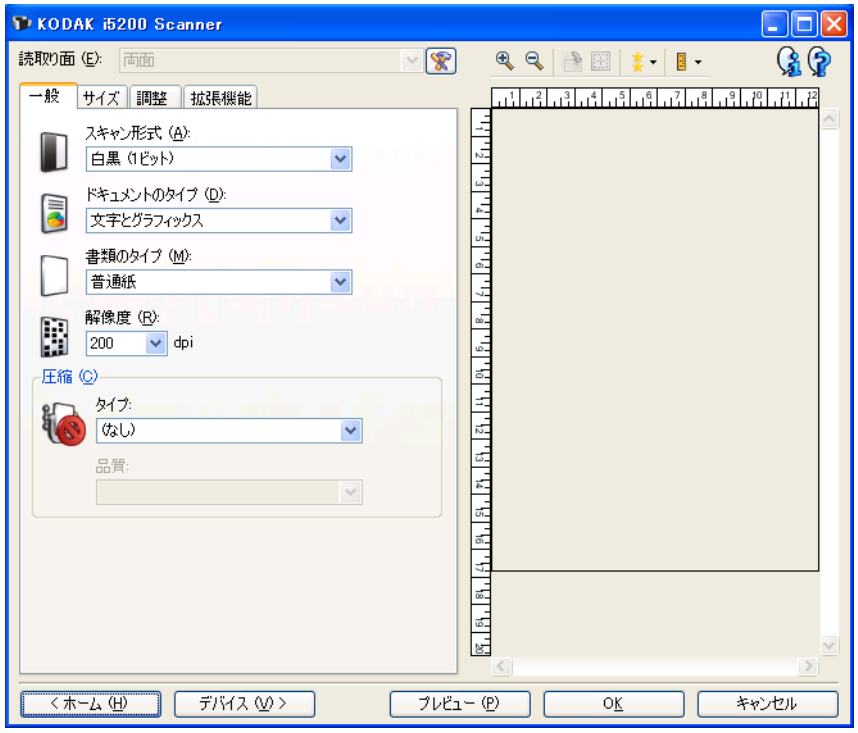
**OK ／スキャン** - このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注：このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

**キャンセル** - 変更内容を保存せずに、スキャナーメインウィンドウを閉じます。

## [ 一般 ] タブ

[ 一般 ] タブには一般的に使用されるイメージオプションが含まれています。ほとんどの場合、他のタブのオプションを変更する必要はありません。




**スキャン形式** - イメージのフォーマットを選択できます。

- **カラー (24 bit)**：カラーイメージを生成します。
- **グレースケール（8 ビット）**：グレースケールイメージを生成します。
- **白黒（1 ビット）**：白黒イメージを生成します。

  注：*[ スキャン方法 ]* オプションは、**[ 読取り面あたりのイメージ数：1]** が [ 詳細 ] タブで選択されている場合にのみ使用できます。

**ドキュメントのタイプ** - ドキュメントの内容のタイプを選択します。

- **文字と図形**：文書、グラフィック（棒グラフ、円グラフなど）、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- **テキスト**：文字原稿の場合に選択します。
- 文字と写真：
- **写真**：写真が主体の場合に選択します。

**書類のタイプ** - スキャンする用紙の素材や重量に基づいてタイプを選択します。オプションは、**普通紙、薄紙、光沢紙、カードストック、雑誌**です。

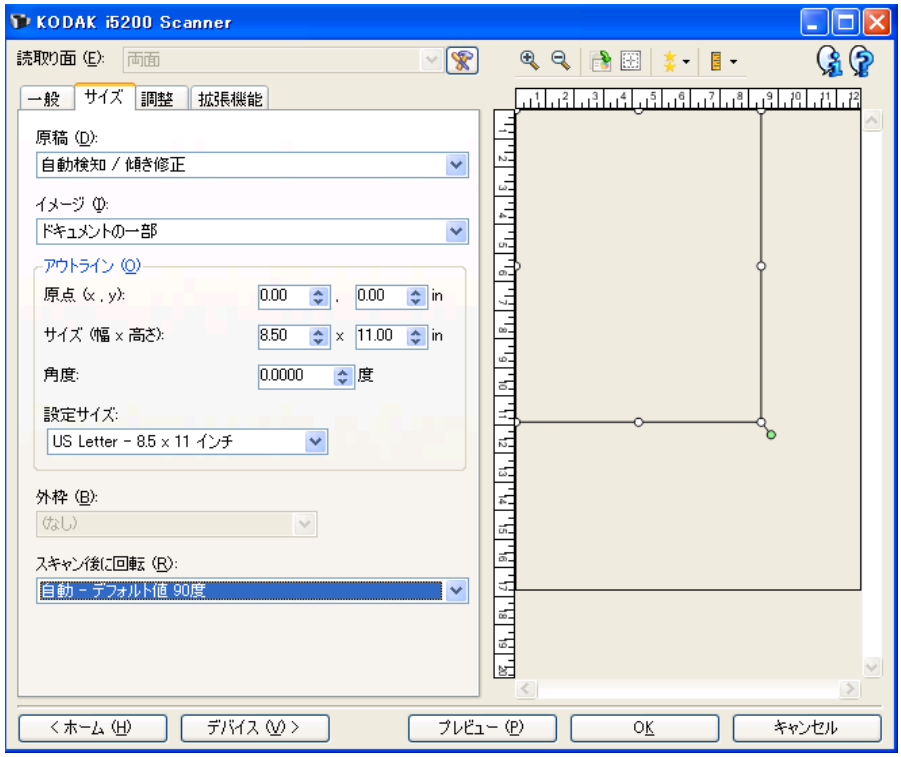
**解像度** - 解像度 (dpi) を選択します。ここで指定した値によってイメージ品質が決まります。また、スキャン時間やイメージサイズにも影響します。オプションは、100、150、200、240、300、400、500、600 dpi です。

**圧縮** - イメージのサイズを縮小できます。

- **タイプ**：カラーイメージを生成します。
  - **（なし）**：圧縮しません。サイズの大きなイメージが生成されます。
  - **グループ -4**：白黒イメージを圧縮する CCITT 標準を使用します。通常は、TIFF ファイルと組み合わせて利用されます。
  - **JPEG**：JPEG 技術を使用してカラー / グレースケールイメージを圧縮します。
- **品質** - JPEG 圧縮を選択した場合に、いずれかの品質オプションを選択します。
  - **ドラフト**：圧縮率を最大にして最小サイズのイメージを生成します。
  - **標準**：標準的な圧縮率ですが、満足いく品質のイメージが生成されます。
  - **高**：一部圧縮され、良い品質のイメージが生成されます。
  - **最高**：小さい圧縮率で良い品質のイメージが生成されます。
  - **高品質**：最小の圧縮率で最大サイズのイメージが生成されます。

  注：このオプションはプレビューイメージには適用されません。

## [ サイズ ] タブ




**原稿** - スキャナーから搬送中の原稿を検知する方法を選択します。

- **自動検知 / 傾き修正**：各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知し、斜めに搬送された原稿の傾きを補整します。
- **自動検知**：各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知します。原稿が斜めに搬送されても、補正されません。
- **マニュアル指定**：[ アウトライン ] オプションで指定する領域に基づきイメージが返されます。同一サイズの原稿を含むスキャンジョブに対してのみこのオプションを使用してください。

**イメージ** - ドキュメントのどの部分をイメージの作成に使用するかを選択します。

- **原稿全体**：**[ 原稿**：**自動検知／傾き補正 ]**、**[ 原稿**：**自動サイズ検知 ]**、または **[ ドキュメント**：**マニュアル選択 ]** を選択すると、ドキュメント全体を返します。
- **ドキュメントの一部**：**[ 原稿**：**自動検知／傾き補正** ] を選択すると、[ アウトライン ] オプションで指定する原稿の一部を捕捉します。

**アウトライン** - イメージの作成に使用する位置とサイズを選択します。プレビューウィンドウにアウトラインが表示されます。

- **原点 (x , y)**：
  - **[ 原稿**：**自動検知／傾き修正 ]** を選択すると 、(x) は原稿の左端からの距離、(y) は原稿の上端からの距離になります。
  - **[ 原稿**：**マニュアル指定 ]** を選択すると、(x) はスキャナーの搬送路の左端からの距離、(y) はスキャナーで検知された原稿の先端からの距離になります。
- **サイズ（幅 x 高さ）**：**[ 原稿**：**自動検知 / 傾き修正 ]** または **[ 原稿**：**マニュアル指定 ]** を選択すると、これがイメージの幅と高さになります。

  注：アウトラインがスキャンされた原稿の長さを超える場合、イメージは指定された長さよりも短くなる場合があります。

- **角度**：アウトラインの角度を選択できます。
- **設定サイズ**：一般的に使用される用紙サイズのリストが表示されます。このリストから項目を選択すると、自動的にアウトラインのサイズがその用紙のサイズに設定されます。アウトラインサイズがいずれのサイズとも一致しない場合、**[ カスタム ]** が表示されます。

注：マウスを使用してプレビューウィンドウに表示されるアウトラインを調整することもできます。

**外枠** - イメージ端の処理を選択できます。

- **（なし）**：イメージはクロッピングされますが、小さい枠が残ります。
- **追加**：イメージの 4 辺に約 0.25 cm までの黒枠が含まれます。

  注：このオプションは、**[ 原稿**：**自動サイズ検知 ]**、または **[ ドキュメント**：**マニュアル指定で使用できます ]**。

- **削除**：外枠を削除して、原稿内側のイメージを生成します。外枠は原稿の端の振れにより生じます。たとえば、原稿が完全な四角形でない場合や歪んで搬送された場合などです。

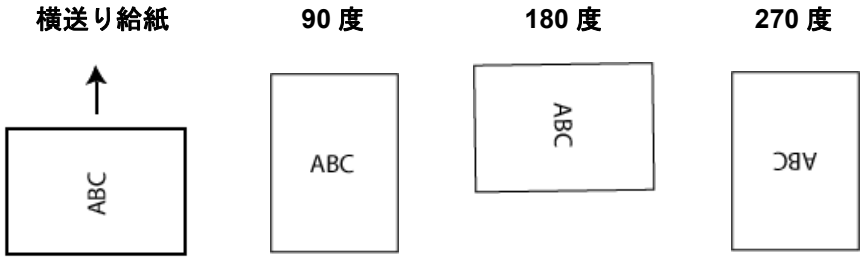
  注：

  - また、[ 拡張機能 ] タブの [ イメージ端埋め ] オプションにより、イメージの端を鮮明にすることができます。
  - このオプションで外枠の大部分が削除できなかった場合、若干の文書情報が失われる可能性があります。
  - このオプションは **[ 原稿：自動サイズ検知 / 傾き補正 ]** および **[ イメージ：ドキュメント全体 ]** がどちらも選択されている場合のみ使用できます。

**スキャン後に回転** - スキャン後にイメージに適用される回転角度を選択できます。

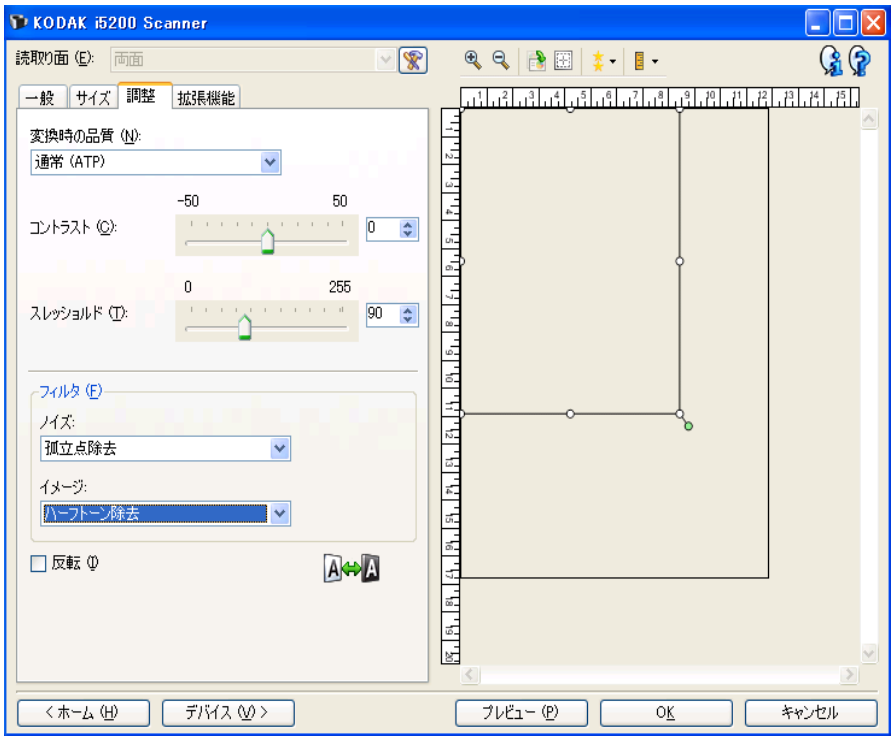
- **（なし）**
- **自動**：スキャナーが各原稿の文字方向を分析して、イメージを適正な方向に回転します。
- **自動 - デフォルト値 90 度**:スキャナーが各原稿の文字方向を分析して、イメージを適正な方向に回転します。原稿が給紙された方向を特定できない場合、イメージを 90 度回転します。
- **自動 - デフォルト値 180 度**:スキャナーが各ドキュメントを分析して、ドキュメントが送信された方法を判断し、イメージを適正な方向に回転します。原稿が給紙された方向を特定できない場合、イメージを 180 度回転します。
- **自動 - デフォルト値 270 度**:スキャナーが各ドキュメントを分析して、ドキュメントが送信された方法を判断し、イメージを適正な方向に回転します。原稿が給紙された方向を特定できない場合、イメージを 270 度回転します。
- **90、180、270 度**：回転する角度を指定します。

以下の例は、これらの設定が横方向にスキャンされた原稿にどのように影響するかを表します。



## [調整] タブ：白黒

[ 調整 ] タブで利用できるオプションは、[ 一般 ] タブの *[ スキャン形式 ]* の選択項目により異なります。以下のオプションは、*[ スキャン形式 ]* で **[ 白黒 ]** を選択した場合に基づきます。




**変換品質** - これらの設定は、白黒イメージを生成するために使用する、グレースケール原稿の解析方法に影響します。

- **最高 - Intelligent QC**：**最高**解析に加え、Intelligent QC（品質管理）も実行されます。設定が困難な原稿のイメージがグレースケールで生成され、ご使用のアプリケーションソフトウェアで画質を最終的に決定することができます。

  注：このオプションは、*Kodak* キャプチャ プロ ソフトウェアでのみ利用可能です。詳細については、ソフトウェアの説明書を参照してください。

- **最高 (iThresholding)**：原稿ごとに解析して、最高品質のイメージを生成します。単一の設定では画質が異なる書類（文字のかすれ、暗い背景、カラーの背景など）を混在スキャンすることができます。
- **通常 (ATP)**：目的の画質を生成するための最適な設定を選択できます。このオプションは単一の設定で原稿をスキャンする際に最適です。また、*[ 最高 ]* 選択時に目標とする画質の *[ コントラスト ]* 設定が見つからない場合など、異なる設定の書類をスキャンする場合にもこの設定を使用できます。
- **ドラフト（固定）**：ピクセルが白か黒かを判断するために使用するグレースケールのしきい値を選択します。このオプションは、コントラストの高い書類に最適です。

**コントラスト** - イメージを鮮明にまたはソフトにします。この設定値を小さくすると、イメージがやわらかくなり、イメージ中のノイズが除去されます。この設定値を大きくすると、イメージがより鮮明になり、薄いイメージがわかりやすくなります。これらのオプションの範囲は、**[-50]** から **[50]** です。デフォルト値は 0 です。

注：これは、*[ 変換の品質 : 最高 ] と [ 変換時の品質 : 通常 ] の場合のみ使用できます。.*

**スレッショルド** - ピクセルを黒または白と認識するレベルを設定します（1 ビット / ピクセル）。この設定値を小さくすると、イメージがより薄くなり、背景を抑えることができます。この設定値を大きくすると、イメージが濃くなります。また、薄いイメージを取り込みやすくなります。このオプションには、0 ～ 255 の値を指定することができます。デフォルトは 90 です。

注：これは、*[ 変換の品質 : 標準 ] および [ 変換の品質 : ドラフト ] の場合のみ使用できます。*

**フィルタ**

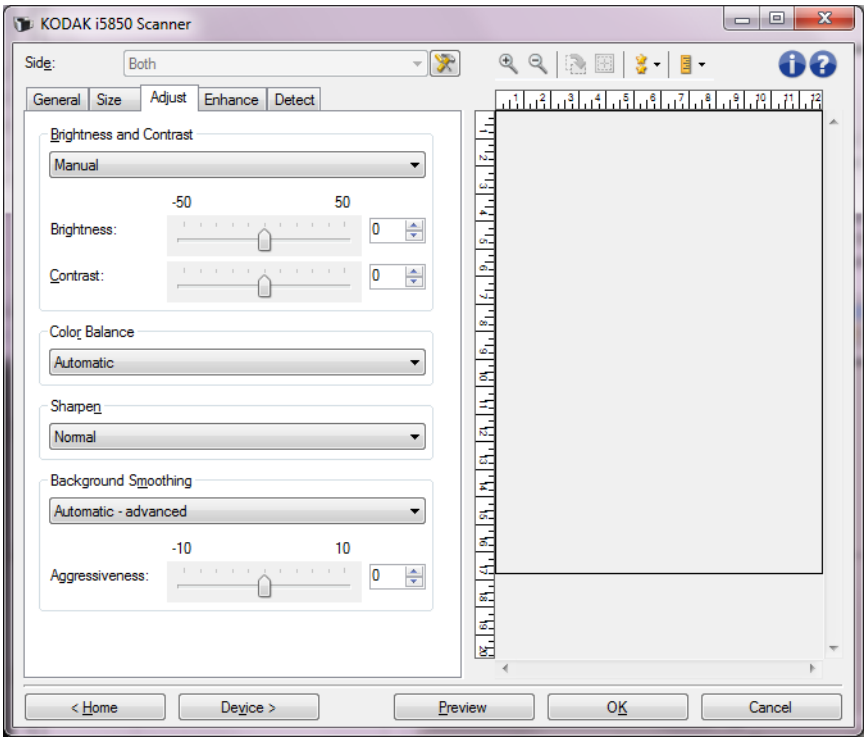
- **ノイズ**
  - **なし**：オプションを実行しません。
  - **Lone Pixel**（孤立点除去）：白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
  - **マジョリティルール**：各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。ピクセルは周辺のピクセルの大部分が白の場合白になり、黒の場合は黒になります。
- **イメージ**
  - **なし**：オプションを実行しません。
  - **ハーフトーン除去**：ハーフトーンスクリーンを使ったドットマトリックステキストやイメージ（新聞の写真など）の見栄えを良くします。

**反転** - 黒ピクセルがイメージ内に保存される方法を選択できます。デフォルトでは、黒ピクセルは黒として、白ピクセルは白として保存されます。黒ピクセルを白として、白ピクセルを黒として保存する場合は、このオプションを有効にします。

## [調整] タブ : カラー／グレースケール

[ 調整 ] タブで利用できるオプションは、[ 一般 ] タブの *[ スキャン形式 ]* の選択項目により異なります。以下のオプションは、*[ スキャン形式 ]* で **[ カラー ]** または **[ グレースケール ]** を選択した場合に基づきます。

注：ほとんどのオプションには、追加設定があります。これらの設定は、オプションが選択された場合のみ表示されます。設定が画面に収まりきれない場合、すべての設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。




### 明度とコントラスト

- **なし**：オプションを実行しません。
- **自動**：各イメージを自動的に調整します。
- **手動**：すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
  - **明度** - カラー/ グレースケールイメージ中の白の量を変更します。値の範囲は **-50** ～ **50** です。
  - **コントラスト** - イメージをよりシャープにしたりよりソフトにします。値の範囲は **-50** ～ **50** です。

**カラーバランス**

- **なし**：オプションを実行しません。
- **自動**：各原稿の白い背景を純白に調整します。このオプションを使用すると、用紙ごとの厚さやブランドの違いによる白の差異を補うことができます。このオプションは写真に対して使用しないことを推奨します。
- **自動 - 詳細自動**：オプションの詳細を設定したい場合に使用します。
  - **強度** - 差異の度合いを調整できます。値を大きくすることで、古くなって黄ばんだ原稿に対応できます。値の範囲は **-2** ～ **2** です。
- **手動**：すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
  - **赤** - カラーイメージ中の赤のレベルを調整します。値の範囲は **-50** ～ **50** です。
  - **青** - カラーイメージ中の青色のレベルを調整します。値の範囲は **-50** ～ **50** です。
  - **緑** - カラーイメージ中の緑色のレベルを調整します。値の範囲は **-50** ～ **50** です。

注：カラーバランスはグレースケールイメージでは無効です。

**シャープネス** - イメージ内の境界線のコントラストを増やします。

- **なし**：オプションを実行しません。
- **通常**
- **高**
- **強調**

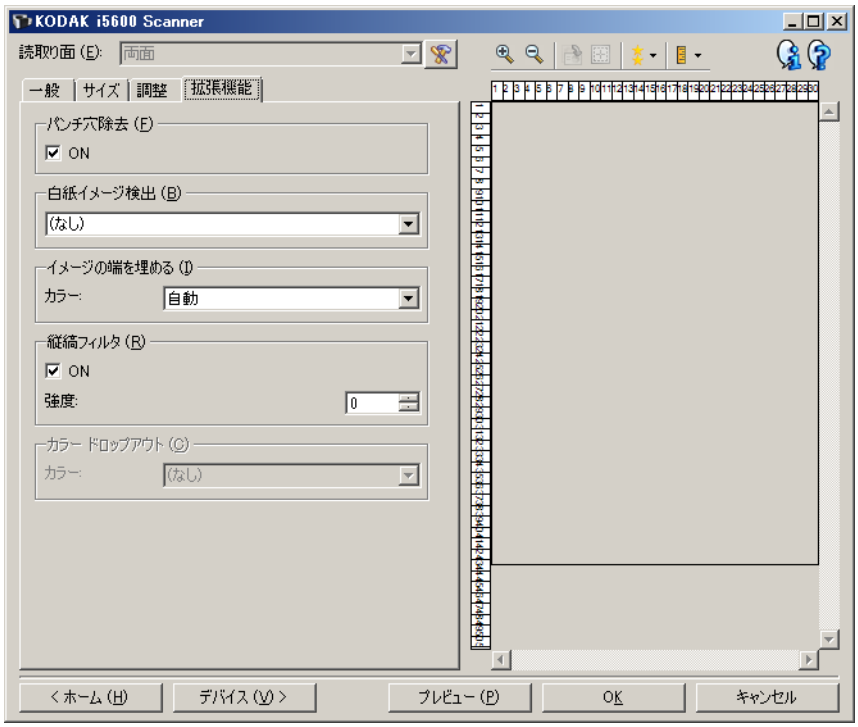
**背景のスムージング** - 背景色のある原稿やフォームをスキャンする場合にこのオプションを使用すると、背景色を均一にします。このオプションを利用すると、イメージ品質を向上しながら、ファイルサイズを軽減できます。

- **（なし）**
- **自動**：背景色を 3 色までスムージングします。
- **自動 - 詳細自動**：オプションの詳細を設定したい場合に使用します。
  - **強度** - 強弱を調整して背景色を調整します。値の範囲は **-10** ～ **10** です。
- **白に変換**：背景色を 3 色まで識別し、それぞれを白に変換します。
  - **適用先**：
    - **メインの色** - 背景色のメインの色を白にします。
    - **中間色** - 中間色を白にします。他の 2 つの背景色も均一なカラーにスムージングします。
    - **全色** - 中間色を白にします。他の背景色も 2 色まで白にスムージングします。
  - **強度** - 強弱を調整して背景色を調整します。値の範囲は **-10** ～ **10** です。

## [ 拡張機能 ] タブ

［拡張機能］タブのオプションは、[ 一般 ] タブの *[ スキャン形式 ]* の選択項目により異なります。

注：ほとんどのオプションには、追加設定があります。これらの設定は、オプションが選択された場合のみ表示されます。設定が画面に収まりきれない場合、すべての設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。




**パンチ穴除去** - 原稿の端の周囲にある穴を埋めることができます。埋められる穴のタイプは、丸、長方形、不定形（例、二重穴が開いている、またはバインダーから原稿を取り外した際にできた多少の裂け目など）です。チェックを**オンにすると** パンチ穴除去機能が有効になります。

**イメージ端埋め** - 最終的に出力される電子イメージの端の領域を、選択された色で埋めます。

- **[ カラー ]**：
  - **なし**：オプションを実行しません。
  - **自動**：イメージの端が周囲の色で自動で埋められます。
  - **自動 - 破れを含める**：イメージ端埋めに加え、イメージの端の破れも補完されます。
  - **白**
  - **黒**
- **フレーム設定**：このオプションをオンにすると、4 辺が等しく埋められます。このオプションは**白黒**に対してのみ使用できます。
- **上**：上端を埋める量を決定します。
- **左／右**：左のオプションは、左端を埋める量を、右のオプションは右端を埋める量を決定します。
- **下**：下端を埋める量を決定します。

注：

- **[ 上 ]**、**[ 左／右 ]** 、**[ 下 ]** の各オプションは、*[ フレーム設定 ]* が有効になっている場合は使用できません。
- **イメージ端埋め**を使用する場合は、大きな値を入力しないよう注意してください。値が大きすぎると、イメージデータが塗りつぶされる場合があります。

このオプションはプレビューイメージには適用されません。

**縦縞フィルタ** - イメージから縦縞をフィルタするようにスキャナーを設定できます。縦縞とは、元の原稿には存在しないにもかかわらず、イメージに現れることがある線のことです。縦縞は、ドキュメント上の汚染物質（例、泥、塵、または擦り切れた端）が原因で発生するか、スキャナーの推奨される清掃手順に従わないために発生する場合があります。

- **[ オン ]**：縦縞フィルタ機能を使用します。
- **強度**：縦縞フィルタの強弱を調整します。値の範囲は、-2 ～ 2 です。デフォルト値は 0 です。

注：[ 一般 ] タブの *[ ドキュメントのタイプ ]* フィールドを選択すると、[ 縞 ] フィルタに影響します。スキャナーはこのフィールドを利用して、イメージから縞を除去する際に、縞の下のデータを再構築する方法を決定します。テキストや低解像度の絵図があるドキュメントをスキャンする場合は、**[文字]** または **[文字とグラフィック]** を選択すると最適なイメージ処理を実行します。

**カラードロップアウト** - フォームの背景を消去するために使用します。背景が消去されると入力されたデータのみがイメージとして保存されます（フォームの線とボックスを削除など）。白黒イメージの場合、スキャナーがイメージの生成のために解析するグレースケールイメージは、設定に影響を受けます。

- **[ カラー ]**：ドロップアウトする色を選択します。
  - **（なし）**
  - **マルチ**：濃い色合い（黒や濃紺インクなど）以外のドロップカラー。この機能はスキャンした各イメージのカラー分析を行い、最大 5 色までドロップアウトします。1600 万色以上の色からカラーを選択できます。*[ 強度 ]* スライダを使用して、カラーを調整します。この機能はスキャン原稿毎に解析します。ドロップアウトする色を選択する必要はありません。**[ マルチ ]** はグレースケール出力で使用できます。
  - **主色**：主色をドロップアウトします。様々な色がドロップアウトされるため、フォームがすべて同じ色の場合でも、このオプションを使用します。またこのオプションは、単一のバッチで形式を混在させることができるので、それぞれが 1 つの形式の色をもつ複数の形式である場合に最適です。
  - **赤**：**赤色をドロップアウトします。**
  - **緑**：**緑色をドロップアウトします。**
  - **青**：**青色をドロップアウトします。**
- **強度**：ドロップアウトする色の程度を調整することができます。値の範囲は **-10** ～ **10** です。デフォルト値は 0 です。*このオプションは、[ カラー] が **[ マルチ ]** または **[ 主色 ]** に設定されている場合に使用できます。*

注：

- すべての [ カラードロップアウト ] オプションは、*[ スキャン形式 ]* で **[ 白黒 ]** が選択されている場合に利用できます。
- グレースケールスキャンでは、**[ 赤 ]**、**[ 緑 ]**、**[ 青 ]** が使用できます。
- カラースキャンではカラードロップアウトは使用できません。

以下の赤、緑、青の Pantone 値は、ドロップアウト結果が良好になります。

この値は、標準の Pantone Matching System® Colors ガイド（コーティングなし、175 本 / 画面）を使用して確立しています。使用しているドキュメントの背景が明るい白でない場合は、異なる結果になることがあります。iThresholding を推奨します。iThresholding でカラードロップアウトの処理結果に満足が得られない場合は、ATP 変換の品質設定によりバイナリゼイションをさらに制御することができます。

以下の表に、赤、緑、青のドロップアウトオプションで使用できる色のリストを示します。

### i5000 シリーズスキャナー、ファームウェア V3.09.01 の RGB エレクトロニックカラードロップアウト

### 赤のドロップアウト

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 144U | 150U | 151U | 1485U | 1495U | 1505U | オレンジ 021 U | 156U |
| 157U | 158U | 1555U | 1565U | 1575U | 1585U | 162U | 163U |
| 164U | 165U | 1625U | 1635U | 1645U | 1655U | 169U | 170U |
| 171U | 172U | 176U | 177U | 178U | ウォームレッド U | 179U | 1765U |
| 1775U | 1785U | 1788U | 1767U | 1777U | 1787U | 赤 032U | 182U |
| 183U | 184U | 185U | 186U | 189U | 190U | 191U | 192U |
| 1895U | 1905U | 1915U | 1925U | 196U | 197U | 198U | 199U |
| 200U | 203U | 204U | 205U | 206U | 210U | 211U | 212U |
| 213U | 217U | 218U | 219U | ルビン赤 U | 223U | 224U | 225U |
| 226U | 230U | 231U | 232U | ローダミン赤 U | 236U | 237U | 238U |
| 239U | 240U | 2365U | 2375U | 2385U | 2395U | 2405U | 243U |
| 244U | 245U | 246U | 247U | 250U | 251U | 252U | 紫 U |
| 253U | 256U | 257U | 2562U | 2572U | 2582U | 2563U | 2573U |
| 2567U | 263U | 264U | 2635U | 2645U | 236U | 2365U | 2375U |
| 243U | 244U | 245U | 250U | 251U | 256U | 257U | 2562U |
| 2572U | 2582U | 2563U | 2567U | 263U | 264U | 2635U | 2645U |
| 1375U | | | | | | | |

### 緑のドロップアウト

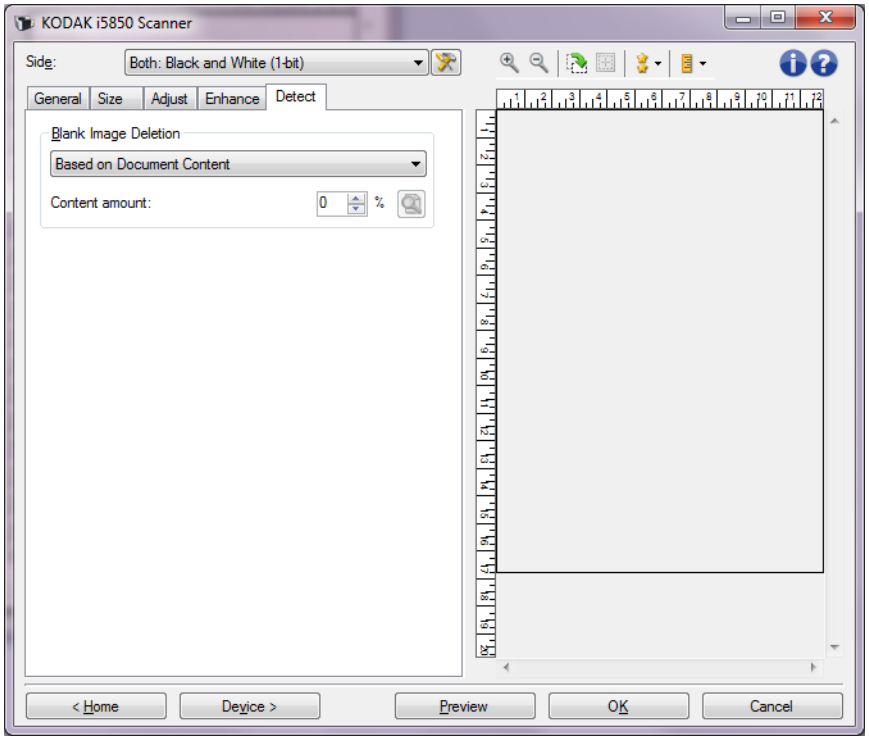
| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 106U | 107U | 108U | 109U | 113U | 114U | 115U | 120U |
| 121U | 122U | 1205U | 1215U | 127U | 134U | 135U | 1345U |
| 148U | 317U | 3245U | 331U | 332U | 333U | 337U | 3375U |
| 3385U | 3395U | 344U | 345U | 351U | 352U | 353U | 358U |
| 359U | 360U | 365U | 366U | 367U | 368U | 372U | 373U |
| 374U | 375U | 376U | 379U | 380U | 381U | 382U | 386U |
| 387U | 388U | 389U | 390U | 393U | 394U | 395U | 396U |
| 397U | 3935U | 3945U | 3955U | 3965U | 317U | 3294U | |

### 青のドロップアウト

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 317U | 3245U | 236U | 2365U | 2375U | 243U | 244U | 245U |
| 250U | 251U | 256U | 257U | 2562U | 2572U | 2582U | 2563U |
| 2567U | 263U | 264U | 2635U | 2645U | 236U | 2365U | 2375U |
| 243U | 244U | 245U | 250U | 251U | 256U | 257U | 2562U |
| 2572U | 2582U | 2563U | 2567U | 263U | 264U | 265U | 266U |
| 2635U | 2645U | 2655U | 270U | 271U | 272U | 2705U | 2715U |
| 2725U | 2706U | 2716U | 2726U | 2707U | 2717U | 2727U | 2708U |
| 2718U | 2728U | 277U | 278U | 279U | 283U | 284U | 285U |
| 290U | 291U | 292U | 293U | 2905U | 2915U | 2925U | 2935U |
| 297U | 298U | 299U | 300U | 2975U | 2985U | 2995U | 3005U |
| 304U | 305U | 306U | プロセス ブルー U | 310U | 311U | 312U | 313U |
| 3105U | 3115U | 3125U | 317U | 318U | 319U | 324U | 3242U |
| 3252U | 3245U | | | | | | |

## [ 検知 ] タブ

[ 検知 ] タブには、以下のオプションがあります。




**白紙イメージの削除** - スキャンアプリケーションに白紙のイメージが取り込まれないように設定できます。

- **（なし）**：すべてのイメージがスキャンアプリケーションに送信されます。
- **文字量基準**：イメージ内の原稿内容に基づきイメージが白紙であるかどうか判断されます。

  注：コンテンツによる白紙イメージ検出は、スキャナーファームウェア 3.12.1（およびそれ以降）で改善されており、テキストがほとんどないページでも、より優れた検出が可能です。改善された機能では、ページあたり数文字だけでもその差が断定できます。この機能は感度が高いため、削除されつつあるイメージを見つけて削除されないようにする場合、比率コンテンツの値を増加させる必要がある場合があります。たとえば、5% の設定は、改善された機能では 12 ～ 13% と等しくなるでしょう。

- **文字量**：スキャナーが白紙であると判断する内容の最大量を設定できます。内容量がこの値以上のイメージは白紙でないと判断されると、スキャンアプリケーションへ送信されます。値の範囲は、0 ～ 100% です。

  - ：*[ 文字量基準 ]* プレビューによってイメージの内容量が入力されます。一般的な白紙原稿（レターヘッド付きの白紙原稿など）があれば、内容量を設定する際に参考になります（必要に応じてプレビュースキャン、このボタンのクリック、内容サイズの調整などを実行します）。

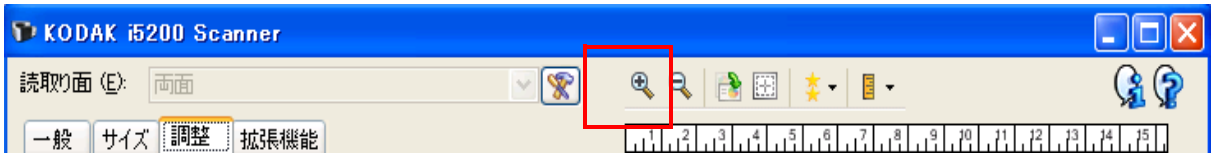
注：このオプションはプレビューイメージがある場合のみ使用できます。

- **ファイル容量基準**：（他のすべての設定が適用された後）スキャンアプリケーションに送信するとイメージのサイズに基づいて、白紙であるかどうか判断されます。
  - **ファイル容量**：スキャナーが白紙でないと判断するイメージの最小サイズを選択できます。サイズがこの値以下のイメージは白紙と判断され、スキャンアプリケーションへ送信されません。値の範囲は、1 ～ 1,000 KB（1 KB は 1,024 バイト）です。

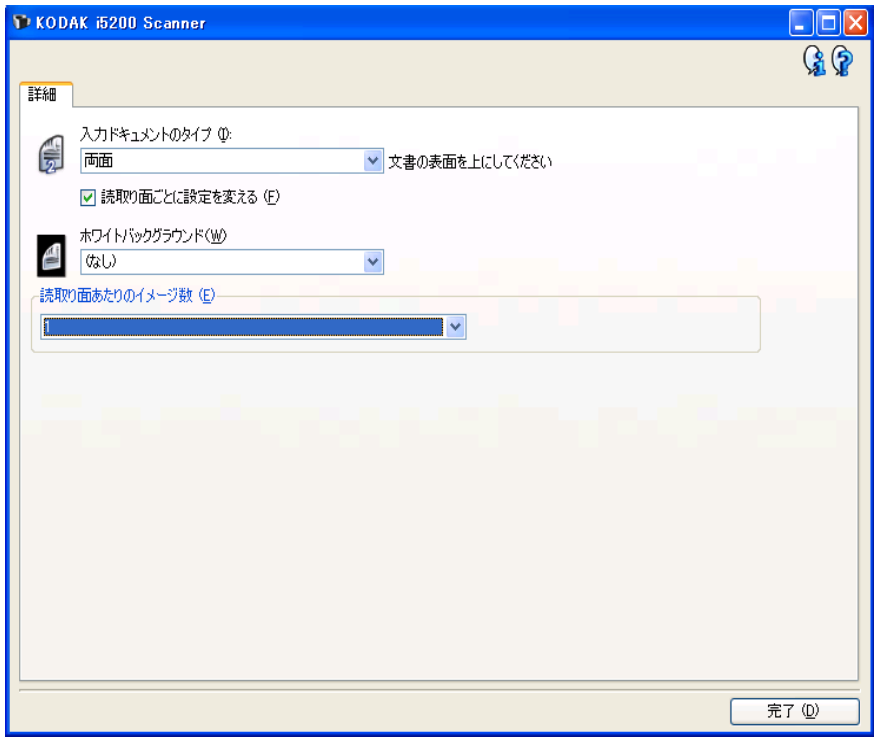
# 詳細イメージセットアップ

**[ 詳細 ] タブ**

[ イメージの詳細設定 ] アイコンは、イメージ設定ウィンドウの上部にある、*[ 読取り面 ]* ドロップダウンボックスの隣にあります。

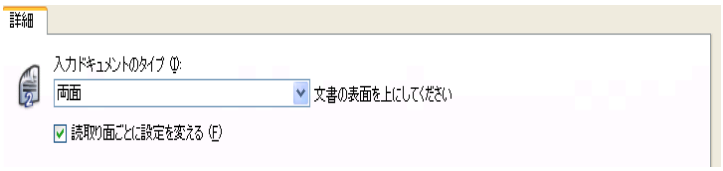



[ 詳細イメージセットアップ ] アイコンを選択すると、[ 詳細 ] タブが表示されます。

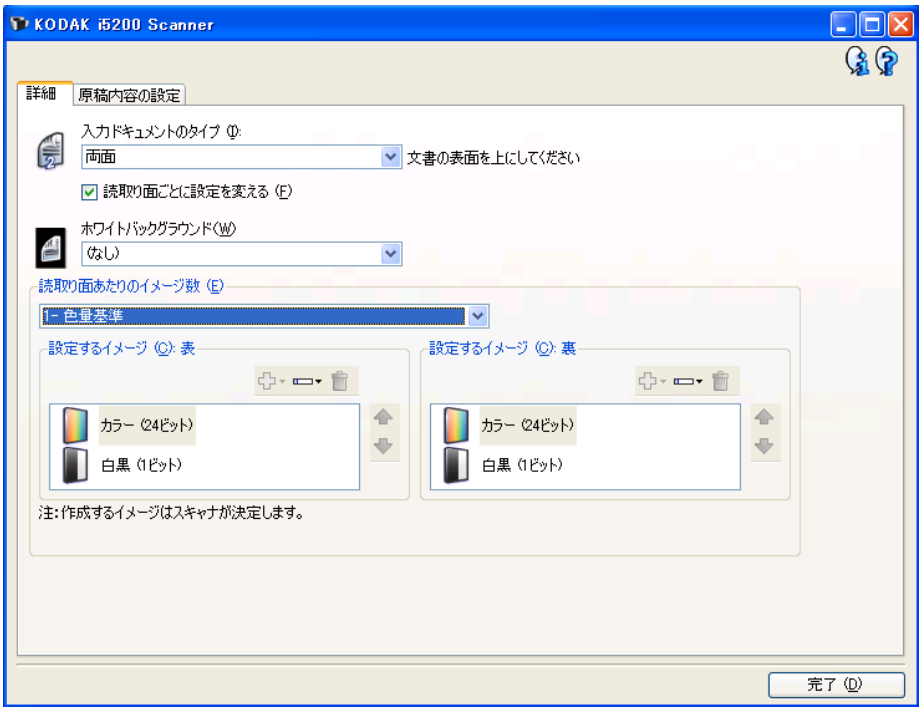



**入力ドキュメントのタイプ - 設定する面に応じて、[ 両面 ]、[ 片面 - 表 ]、**または **[ 片面 - 裏 ]** を選択します。

**読み取り面ごとに設定を変える** - デフォルトでは、選択した設定内容が両面のイメージに適用されます。スキャン対象原稿のそれぞれの面に異なるイメージ処理設定を適用する場合に、このオプションを選択します。たとえば表面をカラー、裏面を白黒にしたい場合は、まず **[ 入力ドキュメントのタイプ ]** ドロップダウンリストから *[ 両面 ]* オプションを選択し、次に *[ 読み取り面ごとに設定を変える ]* のチェックボックスを選択します。



この操作を行うと、[イメージ設定 ] ウィンドウにある *[ 読取り面 ]* オプションが有効になり、読み取り面ごとに異なる設定を選択することができます。**[ 読取り面ごとに設定を変える ]** を有効にしているため、最初の選択内容はスキャン対象原稿の表面のみ適用されます。表面に関するオプションを選択し終わったら、*[ 読取り面 ]* オプションから裏面を選択し、裏面に適用するオプションを設定していきます。




**[ ホワイトバックグラウンド ]** - 原稿の一部が欠けている場合、その部分の背景を黒の代わりに白で表示します。

- **（なし）**：表面と裏面に黒バックグラウンドを使用します。
- **[ 両面 ]**：表面と裏面にホワイトバックグラウンドを使用します。
- **片面 - 表**：表面にホワイトバックグラウンドのみを使用します。裏面では黒が使用されます。このオプションは、**[ 入力ドキュメントのタイプ ]** が *[ 両面 ]* に設定されており、**[ 読み取り面ごとに設定を変える ]** が選択されているか、**[ 入力ドキュメントのタイプ ]** が *[ 片面 - 表 ]* に設定されている場合に限られます。
- **片面 - 裏**：裏面にホワイトバックグラウンドのみを使用します。表面では黒が使用されます。このオプションは、**[ 入力ドキュメントのタイプ ]** が *[ 両面 ]* に設定されており、**[ 読み取り面ごとに設定を変更 ]** が選択されているか、**[ 入力ドキュメントのタイプ ]** が *[ 片面 - 裏 ]* に設定されている場合に限られます。

以下は、ホワイトバックグラウンドが役立つ場合の例です。

- 長方形以外のドキュメントをスキャンするときに、最終イメージでは、ドキュメントの外側のエリアを黒ではなく白にする必要がある場合。
- 片面に印刷して軽量または薄い紙をスキャンするときに、ドキュメント上に黒バックグラウンドが透けて見えて最終イメージに表示されないようにする必要がある場合。

**読取り面あたりのイメージ数** - イメージ処理する選択項目に基づいて、読み取り面あたりに作成するイメージの数を示します。

- **1**：1 つのイメージが作成されます。
- **1 - 自動カラー検知**：ドキュメントがカラー / グレースケールまたは白黒のいずれかを自動的に検知します。
- **1 - カラーパッチ機能**: トグルパッチを印刷した原稿から、スキャナーでその原稿がカラー/ グレースケールまたは白黒のいずれかを判断します。
- **マルチ**：複数イメージが作成されます。

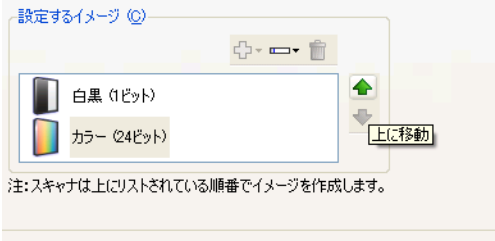
注：**[ 読取り面あたりのイメージ数 ]** オプションから *[1 - 自動カラー検知 ]* を選択すると、[ 原稿内容の設定 ] タブが表示されます。

**設定するイメージ** - 設定する電子イメージを示します。

注：**[ 読取り面あたりのイメージ数 ]** オプションから *[1]* 以外の項目を選択している場合にのみ、このオプションを使用できます。詳細オプションの設定方法は、次のセクションを参照してください。

- *例 1 : 書類の色量を基にカラー/ グレースケールと白黒スキャンを切替え*
- *例 2 : 書類の各面に対して複数イメージを作成*
- *例 3 : 書類の両面にそれぞれ異なる設定を使用*

利用可能な場合は、スキャナーからスキャンアプリケーションにイメージを送る順番は、上矢印と下矢印で変更します。



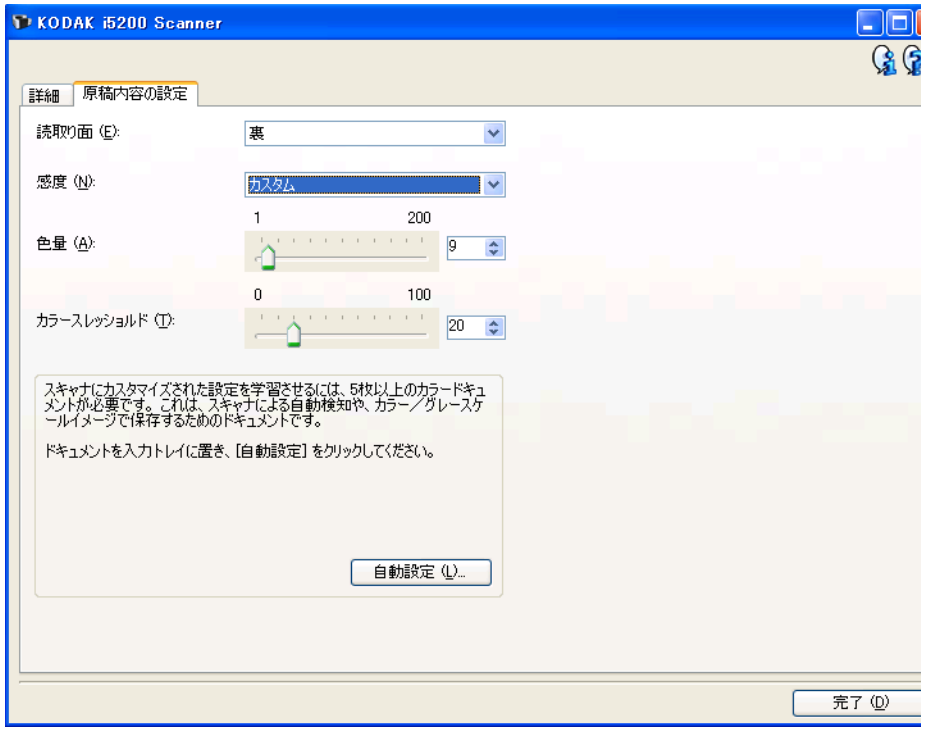

**[ ツールバー ] ボタン**：

| | |
|---|---|
|  | **追加**：設定リストの一番下にイメージを追加します。 |
|  | **変更**：現在選択されているイメージの種類を変更します。 |
|  | **削除**：選択したイメージの種類を削除します。 |

**完了** - [ イメージ設定 ] ウィンドウに戻ります。

## [ 原稿内容の設定 ] タブ

[ 書類タイプの設定 ] タブのオプションは、片面または両面ジョブに使用できます。




**読取り面** - [ 感度 ] の設定を適用する面を指定します。このオプションは、[ 詳細 ] タブで **[ 読取り面ごとに設定を変える ]** が選択されている場合のみ使用できます。

**感度**

- **低**：カラー / グレースケールイメージとして保存するときに、色の量が微量な原稿の場合に選択します。黒い文字と小さなロゴが主体の原稿や、マーカーの量や写真の色が少ない原稿をスキャンする場合に適します。
- **中**：カラー / グレースケールイメージとして保存する前に、[ 低 ] オプションよりも色の割合が多い原稿の場合に選択します。
- **高**：カラー / グレースケールイメージとして保存する前に、[ 中 ] オプションよりも色の割合が多い原稿の場合に選択します。中～大規模のカラー写真などを多用している原稿に適します。中間色の写真を正しくスキャンするには、*[ カラーしきい値 ]* や *[ 色量 ]* の値の調整が必要になる場合があります。

- **カスタム**：マニュアルで *[ 色量 ]* や *[ カラースレッショルド ]* の値を調整できます。

  注：[ 感度 ] の値を設定する場合は、まず **[ 中 ]** オプションを選択してから、通常のスキャン作業でテストしてみることをお勧めします。白黒と比較して原稿の大半がカラー / グレースケールとして返された場合は、**[ 高 ]** に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。白黒と比較してカラー / グレースケールとして返された原稿が少なすぎる場合は、**[ 低 ]** に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。どのオプションでも望んでいた結果とならない場合は、**[ カスタム ]** を選択して [ 色量 ] や [ カラーしきい値 ] を手動で調整してください。**[ カスタム ]** を選択した場合、*[ 自動設定 ]* モードを使ってスキャナーに原稿を分析させ、推奨する設定値を算出させることもできます。

**色量** - 原稿をカラー／グレースケールで保存する際に、原稿中に最低限必要なカラーの量です。*[ 色量 ]* の値を増やすと、必要となるカラーピクセルの量も増加します。有効な値は **1 ～ 200** です。

**カラースレッショルド** - 色量の算出時に特定の色量を決定するカラースレッショルドや彩度（水色と紺色の対比など）。値を増やすと、必要とされる彩度が高くなります。有効な値は **0 ～ 100** です。

**自動設定** - スキャンしたサンプルのカラー原稿に基づいて設定値を算出します。**[ 自動設定 ]** を選択する前に、入力エレベータに 5 枚以上のカラー原稿をセットしてください。これらの原稿をスキャン、分析して推奨される *[ 色量 ]* を決定します。

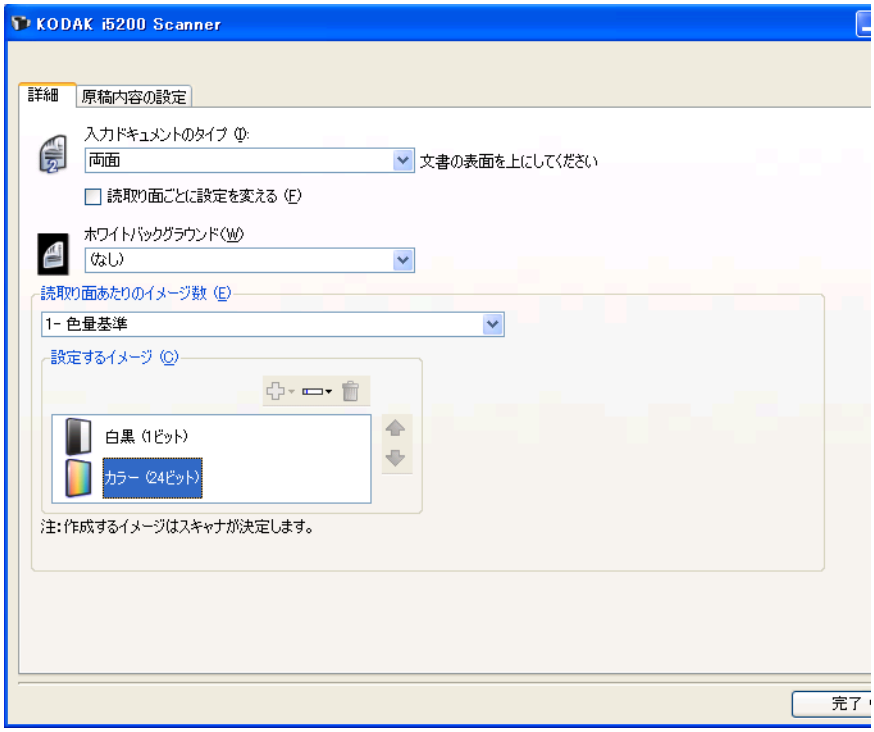
注：計算に応じて [ 色量 ] と [ カラースレッショルド ] の値が自動的に調整されます。算出された値を使っても期待通りの結果にならない場合は、*[ カラー スレッショルド ]* の値をマニュアルで調整してください。

**例 1：原稿の内容に基づくカラー／グレースケールまたは白黒イメージの作成**

この例では、両面に情報が印刷されたカラーと白黒原稿が混在するスキャンセッションを設定します。また、スキャンで原稿がカラーか白黒かを判断し、それに基づきカラーまたは白黒イメージが出力します。

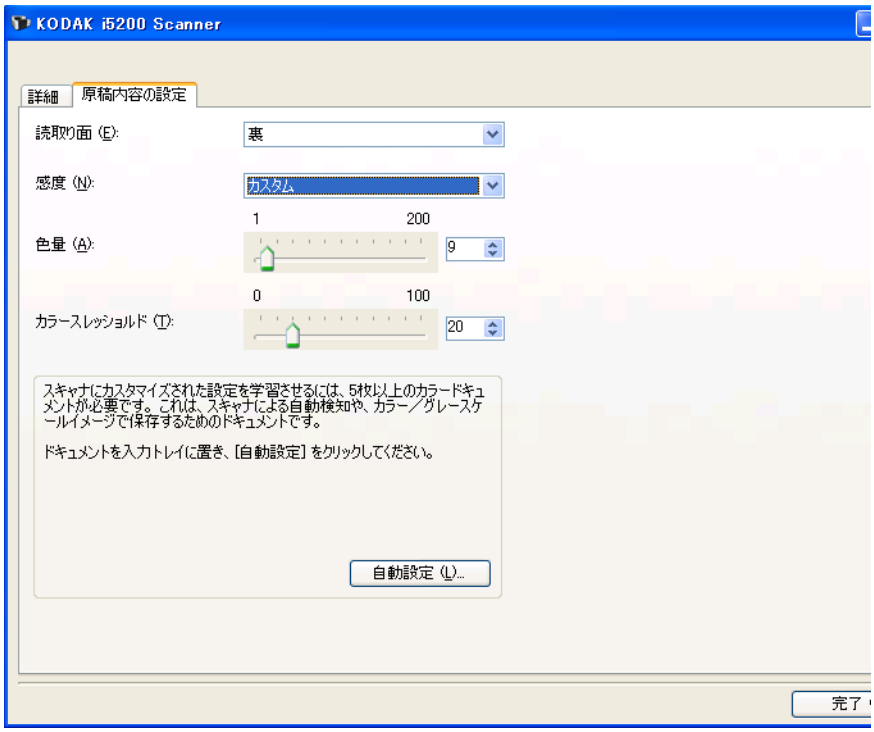
1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の **[ 設定のショートカット ]** を選択します。
2. **[ 設定 ]** を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. イメージ設定ウィンドウの **[ 詳細イメージセットアップ ]** アイコンを選択すると、[ 詳細 ] タブが表示されます。
4. **[ 入力ドキュメントのタイプ ]：両面を選択します。**
5. **[ 読取り面あたりのイメージ数：1 - 色量基準 ] を選択します。**

   注：[ 詳細 ] タブに *[ 設定するイメージ ]* が表示され、[ カラー ]、[ 白黒 ] イメージ項目が選択できます。[ 原稿内容の設定 ] タブも表示されます。



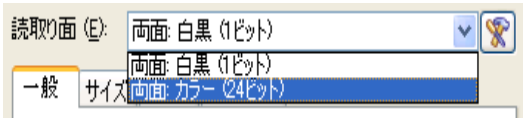

6. カラーイメージではなくグレースケールイメージを取得する場合は、次の処理を行います。
   - *[ カラー（24 ビット）]* を選択します。
   - **[ 変更 ]** を選択してオプションのリストを表示します。
   - **[ グレースケール ]** を選択します。

7. **[ 原稿内容の設定 ]** タブに移動します。




8. **[ 感度 ]** オプションを選択します。
9. **[ 完了 ]** をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

   注：*[ 読取り面 ]* オプションに、**[ 両面：カラー（24 ビット）]**、および **[ 両面：白黒（1 ビット）]** の 2 つの項目が表示されます。




10. **[ 読取り面：] で [ 両面：カラー（24 ビット）]** を選択します。

    注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブと、カラーイメージ設定の設定項目を調整します。

11. **[ 読取り面:] で [ 両面:白黒(1 ビット)]** の場合でのみ使用できます。

    注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、白黒イメージ設定の設定項目を調整します。

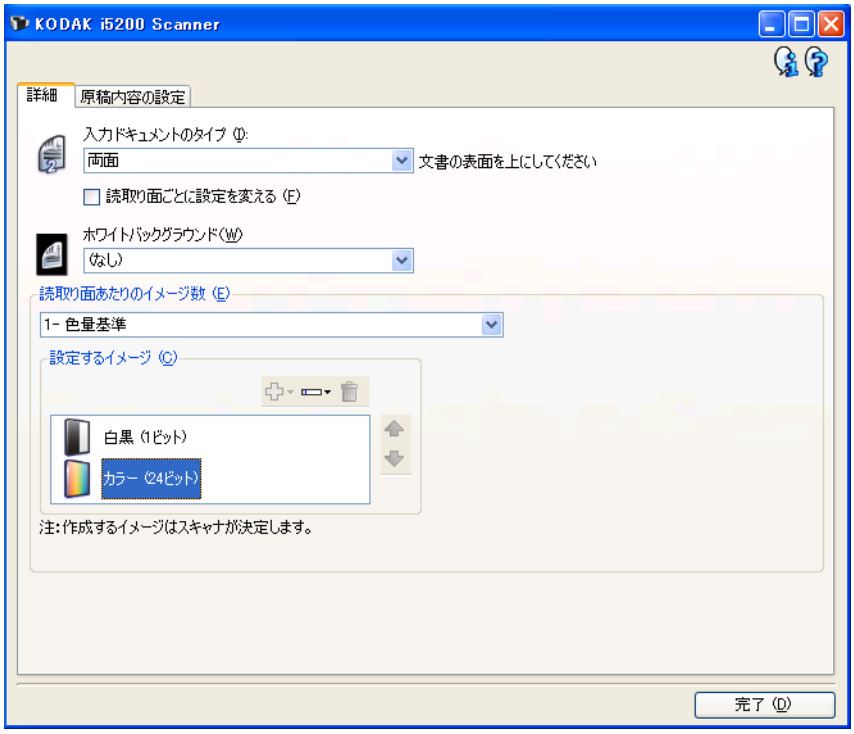
12. 設定が完了したら、**[ ホーム ]** を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、**[ 保存 ]** を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

**例 2：書類の各面に対して複数イメージを作成**

この例では、両面に情報が印刷されている原稿のスキャンを想定し、原稿の各面に対してカラーと白黒イメージの両方を出力します。

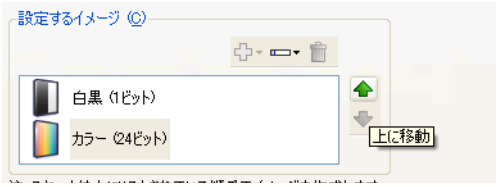
1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の **[ 設定のショートカット ]** を選択します。
2. **[ 設定 ]** を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. イメージ設定ウィンドウの **[ 詳細イメージセットアップ ]** アイコンを選択すると、[ 詳細 ] タブが表示されます。
4. **[ 入力ドキュメントのタイプ ]** : **[ 両面 ]** を選択します。
5. **[ 読取り面あたりのイメージ数 : [ マルチ ]** を選択します。

   注 : [ 詳細 ] タブに *[ 設定するイメージ ]* が表示され、[ カラー ]、[ 白黒 ] イメージ項目が選択できます。



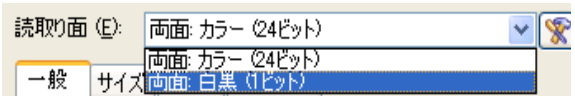

6. カラーイメージではなくグレースケールイメージを取得する場合は、次の処理を行います。
   - *[ カラー（24 ビット）]* を選択します。
   - **[ 変更 ]** を選択してオプションのリストを表示します。
   - **[ グレースケール ]** を選択します。

7. デフォルトでは、スキャナーはまずカラー / グレースケールイメージを出力してスキャンアプリケーションに送り、次に白黒イメージを生成してスキャンアプリケーションに送ります。白黒イメージを先に生成して送信したい場合、次の手順に従います。
   - *[ 白黒（1 ビット）]* を選択していることを確認します。
   - **[ 上に移動 ]** を選択して、白黒イメージをリストの上にセットします。




8. **[ 完了 ]** をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

   注：*[ 読取り面 ]* オプションに、**[ 両面：カラー（24 ビット）]**、および **[ 両面：白黒（1 ビット）]** の 2 つの項目が表示されます。




9. **[ 読取り面：] で [ 両面：カラー（24 ビット）]** を選択します。

   注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブと、カラーイメージ設定の設定項目を調整します。

10. **[ 読取り面:] で [ 両面:白黒(1 ビット)]** の場合でのみ使用できます。

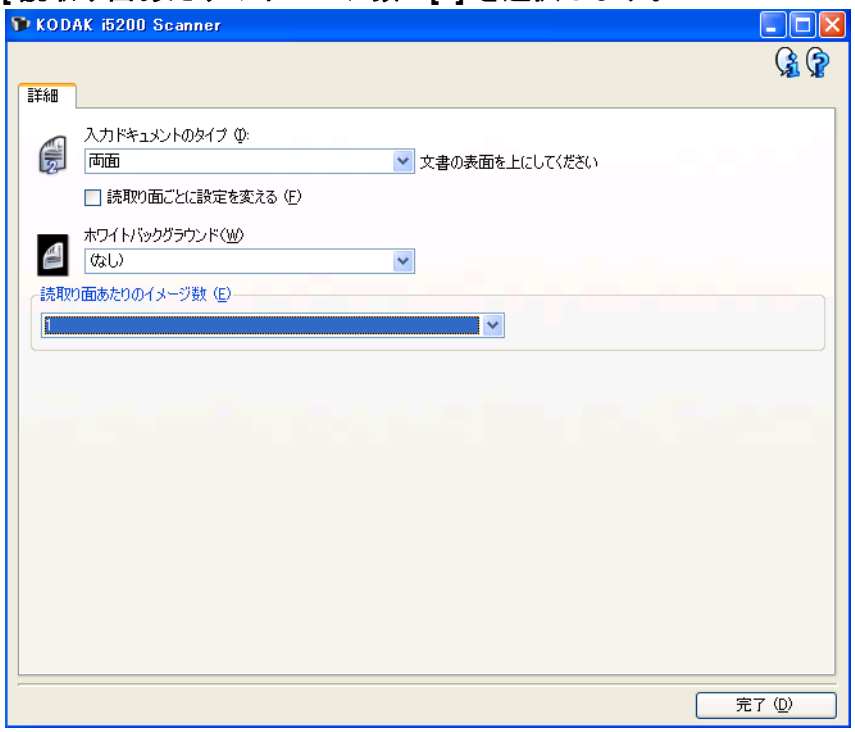
    注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、白黒イメージ設定の設定項目を調整します。

11. 設定が完了したら、**[ ホーム ]** を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、**[ 保存 ]** を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

**例 3：書類の両面にそれぞれ異なる設定を使用**

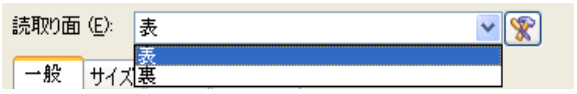
この例では、表面カラー、裏面白黒で原稿をスキャンする設定を行います。

1. [ 詳細 ] タブを開いていない場合、次の手順で設定します。
   - スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の **[ 設定のショートカット ]** を選択します。
   - **[ 設定 ]** を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
   - イメージ設定ウィンドウの **[ 詳細イメージセットアップ ]** アイコンを選択すると、[ 詳細 ] タブが表示されます。
2. **[ 入力ドキュメントのタイプ ]**：**[ 両面 ]** を選択します。
3. **[ 読み取り面ごとに設定を変更 ]** オプションを選択します。
4. **[ 読取り面あたりのイメージ数：[1]** を選択します。




5. **[ 完了 ]** をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

   注：*[ 読取り面 ]* オプションに、**[ 表面 ]** と **[ 裏面 ]** の 2 つの項目が表示されます。




6. **[ 読取り面：] で [ 表 ]** を選択します。
7. [ 一般 ] タブの **[ スキャン形式 ]** オプションで、*[ カラー（24 ビット）]* を選択します。

   注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、裏面の設定項目を調整します。

8. **[ 読取り面：] で [ 裏 ]** を選択します。

9. [ 一般 ] タブの **[ スキャン形式 ]** オプションで、*[ 白黒（1 bit）]* を選択します。

   注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、裏面の設定項目を調整します。

10. 設定が完了したら、**[ ホーム ]** を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、**[ 保存 ]** を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

注：手順 4 で *[ 読取り面あたりのイメージ数 : 1]* 以外のオプションを選択している場合にのみ、2 つの *[ 設定するイメージ ]* オプション グループを使用できます。その場合は、ドキュメントの表裏各面のイメージを個別にセットアップすることができます。

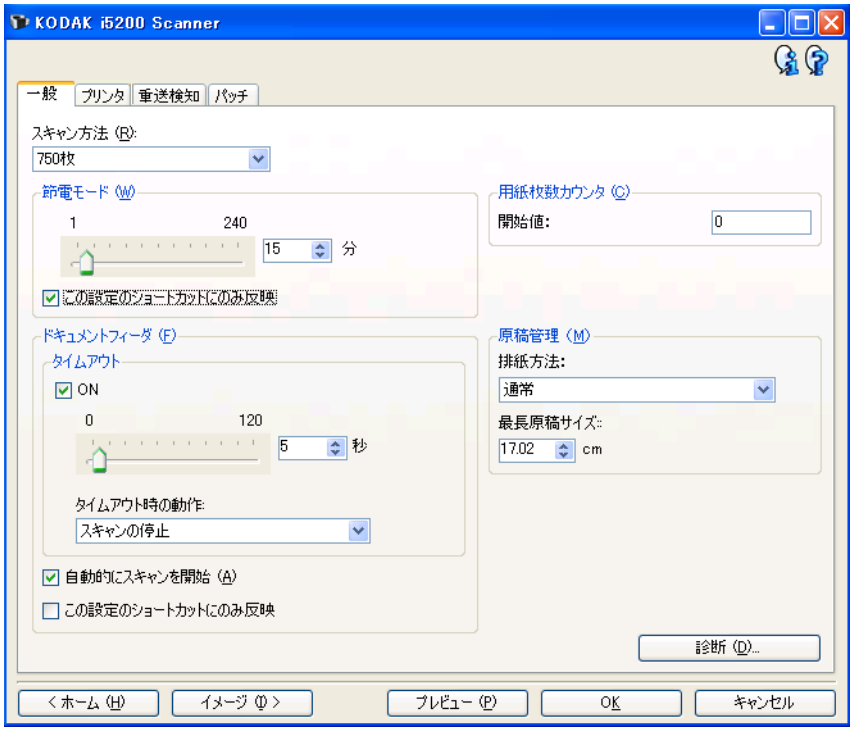


## デバイス設定ウィンドウ

スキャナー固有のすべてのオプションや診断機能を、このウィンドウの利用可能なタブを使用して設定できます。デバイス設定に使用される値は、選択された [ 設定のショートカット ] に保存されます。[ デバイス設定 ] ウィンドウには [ 一般 ]、[ プリンタ ]、[ 重送検知 ] タブがあります。

注：他のタブは、インストールするアクセサリ （[ スタッキング ] タブなど）に基づいて表示されます。

ここでは、（Scan Validation Tool で表示される）TWAIN のデフォルトインターフェースについて説明します。ホストアプリケーションは一部のタブを非表示にしたり、表示されるオプションを制限したりすることで、インターフェースを変更することができます。




**ホーム** - スキャナーメインウィンドウに戻ります。

**イメージ** - [ イメージ設定 ] ウィンドウを表示します。

**プレビュー** - スキャンを開始して、イメージ設定ウィンドウのプレビューウィンドウにスキャンされたイメージが表示されます。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

**OK ／スキャン** - このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。このボタンが *[OK]* の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

**キャンセル** - 変更内容を保存せずに、スキャナーメインウィンドウを閉じます。

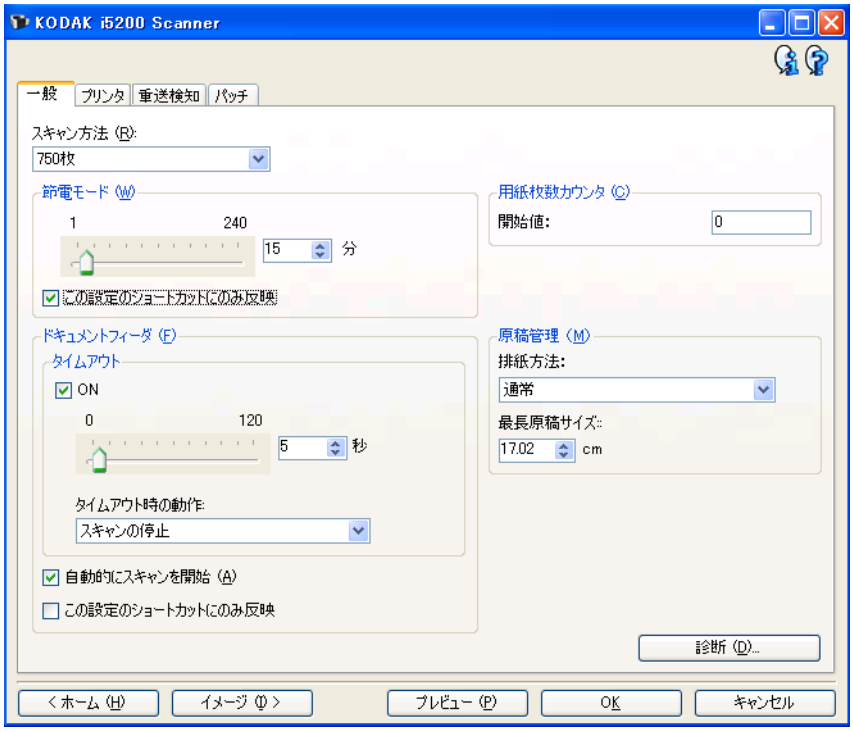
**情報アイコン**

**バージョン情報**：スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。

**ヘルプ**：現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。

## デバイス - [ 一般 ] タブ

[ 一般 ] タブを使用して、スキャナー固有のオプションを設定したり、スキャナー診断にアクセスできます。




### 給紙方法

- **ドキュメントフィーダ** - 入力エレベータは一番高い位置にあります。このオプションは、入力エレベータから 25 枚以内の用紙をスキャンしている場合に推奨されます。
- **100 枚** - 入力エレベータから 25 ～ 100 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **250 枚** - 入力エレベータから 100 ～ 250 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **500 枚** - 入力エレベータから 250 ～ 500 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **750 枚** - 入力エレベータから 500 ～ 750 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。

**節電モード** - スキャナーが操作されていないときに省電力モードに移行するまでの時間を設定できます。

注：省電力設定は、すべての [ 設定のショートカット ] で共有されます。**[ この設定のショートカットにのみ反映 ]** オプションを有効にしない限り、あらゆる変更は他のショートカットに反映されます。

**ドキュメントフィーダ**

- **タイムアウト**：最後の原稿がフィードされてから、タイムアウトになるまでのスキャナーの待機時間を選択できます。このオプションは、**オフ**にすることもできます。
- **タイムアウト時のアクション**：ドキュメントフィーダがタイムアウトになったときに実行するアクションを指定できます。
  - **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。
  - **スキャン一時停止**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。スキャナーの **[ 開始 / 再開 ]** ボタンを押すと、スキャンが再開します。スキャナーの **[ 停止 / 一時停止 ]** ボタンを押すか、スキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。

**トランスポートを自動的に開始** — チェックされている場合、スキャナーは入力エレベータに用紙があると自動的にスキャンを開始します。入力エレベータに用紙がないと、エラーが発生します。

このオプションがチェックされていない場合、スキャナーは休止モードになりますが、オペレータがオペレータコントロールパネルの [ **進む** ] ボタンを押すとスキャンを開始できます。

このオプションを無効にすると、オペレータはスキャン開始前に、スキャナーのタッチスクリーンから **[優先処理]** オプションを有効にできます。

注：ドキュメントフィーダ設定は、すべての [ 設定のショートカット ] で共有されます。**[ この設定のショートカットにのみ反映 ]** オプションを有効にしない限り、あらゆる変更は他のショートカットに反映されます。

**用紙枚数カウンタ** - スキャナーに入る次の原稿に割り当てられる番号を入力します。これは、スキャナーにより順次カウントされ、イメージヘッダに送られます。

注：これを変更すると、デバイス - [ プリンタ ] タブの **[ カウンタ ]** オプションに影響が及びます。

**原稿管理**

- **インテリジェントな保護** - スキャナーに正しく入っていないドキュメントを、スキャナーがどの程度積極的に検出するかを選択できます。これは、スキャンする際に、ドキュメントの準備がきちんと整っていない場合に発生します（ホチキス止めやクリップされたままのドキュメントなど）。

  - **（なし）**
  - **最小**：ドキュメントを必要以上に検出することによりスキャナーがあまりにも頻繁に停止する場合、このオプションを選択します。

    注：検出しないと、ドキュメントはさらに損傷する場合があります。

  - **通常**：これは推奨するオプションであり、ドキュメントの損傷を最小限にし、スキャナーを必要以上に停止させないことの双方でバランスを取ります。
  - **最大**：ドキュメントの損傷を極力防ぐ場合、このオプションを選択します。

    注：スキャナーが必要以上に停止してしまう場合があります。

- **排紙方法** - スキャナーの原稿の排紙方法を選択できます。これにより、ドキュメントがスキャナーにフィードされる方法、スキャナー内で送られる速度、および出力トレイに配置される方法に影響が及びます。

注：管理デュアルスタッキングが有効な場合、[ 排紙方法 ] には、**[ サイズ混在 : ベスト ]** 未満のスループットを用いたカスタムレベルが自動的に設定されます。

  - **通常**：追加の処理は行われません。すべてのドキュメントのサイズが同様である場合に、最適です。
    - 最高の処理速度
    - 排紙コントロール**無効**状態
    - 原稿間のギャップが小さい

  - **サイズ混在**：サイズが混在するドキュメントセット用の出力トレイで、ドキュメントを積み重ねる／並べる方法を制御するのに役立ちます。これは、大多数のサイズ混在ドキュメントセットに使用できます。
    - 処理速度が若干低下
    - 排紙コントロール**有効**状態
    - 原稿間のギャップが小さい

  - **サイズ混在**：**ベスト**：ドキュメントセットのサイズにかなり幅がある場合、このオプションにより、出力トレイ内でドキュメントを積み重ねる／並べるための最適な制御が提供されます。
    - 処理能力が若干低下
    - 排紙コントロール**有効**状態
    - 原稿間のギャップが大きい

- **薄紙**：出力トレイに排紙される際に特別な配慮が必要な原稿の場合。
  - 処理速度が大幅に低下
  - 排紙コントロール**無効**状態
  - 原稿間のギャップが小さい
  - 搬送速度が 1/4 に低下

  - **厚紙**：カードストックよりも厚い原稿用（0.25 mm）。
  - 処理速度が大幅に低下
  - 排紙コントロール**有効**状態
  - 原稿間のギャップが小さい
  - 搬送速度が 1/4 に低下

- **薄紙**：20 ポンドのボンド紙よりも薄い原稿用（わら紙など）。
  - 処理速度が大幅に低下
  - 排紙コントロール**有効**状態
  - 原稿間のギャップが大きい
  - 搬送速度が 1/4 に低下

- **最長原稿サイズ** - ドキュメントセット内で最長の原稿サイズの値を設定します。

  注：

  - この値を変更すると、次の設定の最大値に影響します。*イメージサイズ - アウトライン；プリンタ - リードエッジからのオフセット；マルチフィード - 長さによる探知*

  - 長尺ドキュメントはすべての設定の組み合わせをサポートしません（解像度、カラー、グレースケールなど）。より柔軟にアプリケーションに対応できるように、スキャナーは、許容値を超える原稿が確認されるまでエラーを生成しません。

  - 長尺ドキュメントの場合には、スキャナーの処理能力が減少することがあります。

  - この値より長い原稿をスキャンすると、搬送部が停止し（スキャナー内に原稿が残ったまま）、紙詰まりのメッセージが表示されます。

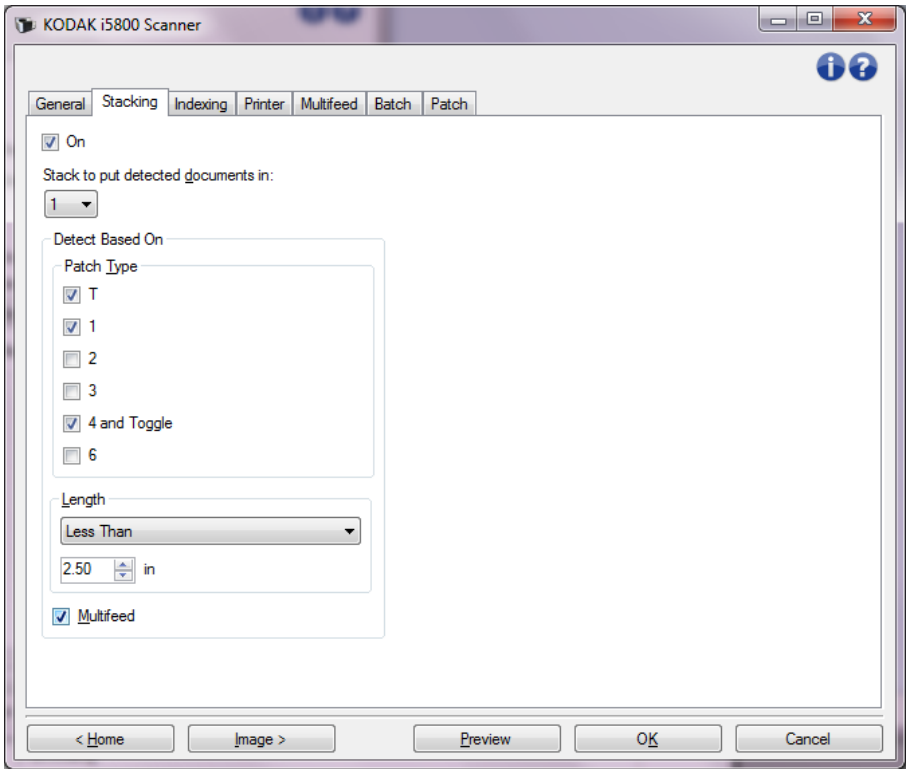
- 最長原稿サイズは常に 2.5 ～ 160 インチ (6.35 cm ～ 457.20 cm) ですが、スキャンの最大長はビット深度（カラー / グレースケール / 白黒、およびスキャン解像度）によって異なります。白黒の 200 dpi は 160 インチ (457.20 cm) ですが、カラーの 600 dpi はかなり短くなります。ユーザが選択した最大長に達する前にスキャナーの処理能力を越えた場合、スキャナーに紙詰まりと表示され、ホストアプリケーションにはその原稿のイメージは送信されません。
- 非常に長い原稿など、サイズが混在する原稿をスキャンする場合、スキャナーのタッチスクリーンで [ 優先処理 1 枚 ] または [ 優先処理 バッチ ] オプションを使用して、[ 長尺原稿スキャン ] を有効にするとよいでしょう。
- 管理デュアルスタッキングが有効な場合、デフォルト設定は 10 インチ /254 mm の最長原稿サイズに制限されます。詳細については、『ユーザーズガイド』の第 5 章「長さ保護の有効化」参照してください。

**診断** - [ 診断 ] タブを表示します。

## デバイス - [ スタッキング ] タブ

[ スタッキング ] タブでは、*Kodak* Controlled Dual Stacking Accessory アウトプットトレーの 2 つのスタックに、ドキュメントを仕分けるオプションを設定できます。

注 : [ スタッキング ] タブは、スキャナーで *Kodak* 管理デュアルスタッキングアクセサリが有効な場合にのみ使用できます。




**オン** - スタッキングをオンにして、このタブの他のオプションを有効にします。

注 : スキャナーのタッチスクリーンからオンまたはオフにすることで、スタッキングは優先処理される場合もあります。

**検出された原稿を入れるスタック** : どのスタックに **[ 検出基準 ]** 設定に一致するドキュメントを入れるかを指定します。一致しない原稿はすべて別のスタックに入ります。

注 : 原稿の重さや状態により、原稿を最適にスタックできるかどうかに影響する可能性があるため、長さが 6 インチ /152 mm 未満の原稿（請求書など）はスタック #1 に、6 インチ /152 mm 以上の原稿（パッチシートなど）はスタック #2 に仕分けることをお勧めします。

**検出基準**

- **パッチタイプ** - パッチシートがある場合、どのパッチシートを原稿セットから仕分け、そして選択したスタックに入れるかを選択できます。次の任意の組み合わせがオプションになります。**T、1、2、3、4 とトグル**、および **6**。パッチシートはスタック #2 に仕分けることをお勧めします。

  タッチスクリーンのデュアルスタッキング トグルパッチオプションでは、パッチシートを使用して原稿をスタック #2 あるいはスタック #1 にスキャンする原稿と仕分けることができます。

  注：

  - スキャナーはパッチシートのイメージを生成します。
  - スキャナーは縦のパッチのみ認識します。
  - パッチシートを硬い紙に印刷すると、より確実にスタッキングできるようになります。
  - 詳細については、『ユーザーズガイド』の「パッチコードの要件」のセクションを参照してください。

**長さ** - どの原稿を原稿セットから仕分けるかを、原稿の長さを基準に選択できます。

- **（なし）**
- **未満**：この長さ以下のドキュメントが、選択したスタックに仕分けられます。比較的短い原稿（請求書など）をスタック **1** に仕分ける場合、このオプションをお勧めします。
- **以上**：この長さ以上のドキュメントが、選択したスタックに仕分けられます。比較的長い原稿をスタック **2** に仕分ける場合、このオプションをお勧めします。
- **範囲**：長さが選択した範囲内の原稿が、選択したスタックに仕分けられます。

  注：

  - スキャン中に原稿が斜めに傾いてしまうこともあり得るため、長さには 1/2 インチ /25 mm を加算して入力してください。
  - 6 インチ /152 mm 未満の原稿では、短原稿インサートを使用することで、スタック **1** へのスタッキングをより確実に行うことができます。

**重送** - 重送されたと判断される原稿をすべて仕分ける場合、このオプションを選択します。これをオンにする設定、および重送検知の設定は、[ デバイス - 重送 ] タブで行います。

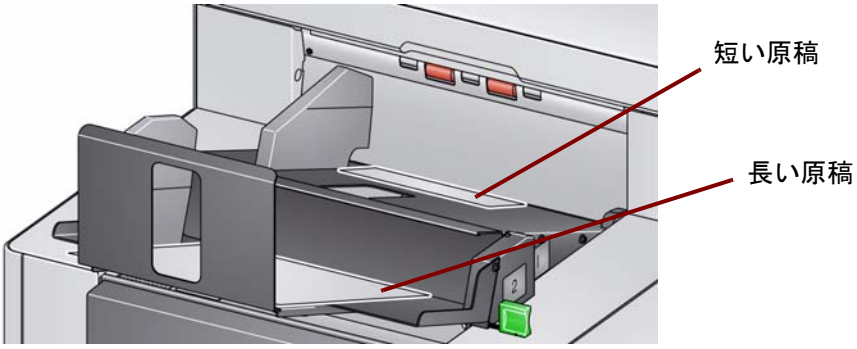
注：

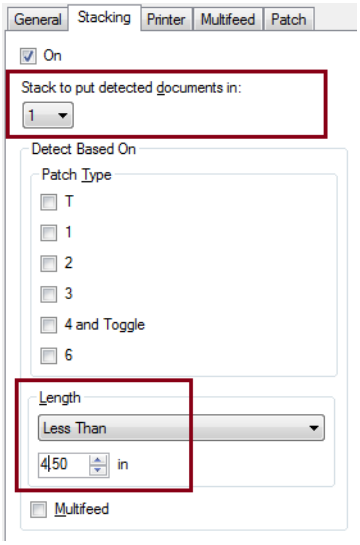
- 比較的厚い原稿を検知し、これらをスタック #2 に仕分けることが可能になることで、このオプションにはさらなる機能があります。すべての原稿が同じようなサイズのため、長さを基準とした検知が使用できないような場合、このオプションは良い選択になります。
- このオプションは、重送検知を自動的にオンにしません。

## スタッキングオプションを使用する場合の推奨設定

以下に、スタッキングオプションを使用する方法をいくつかの例で示します。

### 短い原稿の選別




請求書などの短い原稿をその他の原稿と選別する場合、スタッキングを次のように設定します。

**検出された原稿を入れるスタック**：

**1**（スタック #1）

*長さ*オプション：

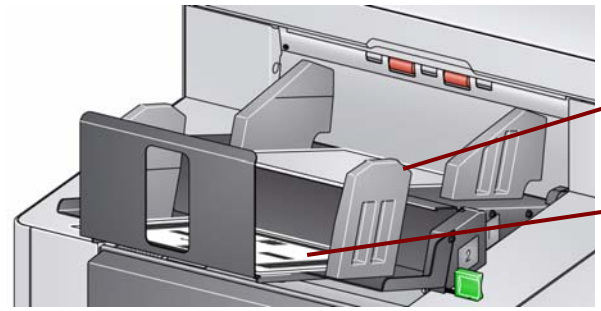
**未満**：最も短い原稿に 1/2 インチを加算した長さを設定します。

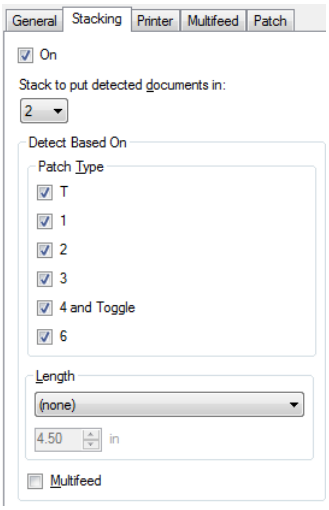
注：

- 短い原稿を給紙中に斜めに傾いてしまうこともあり得るため、1/2 インチを加算する必要があります。
- 比較的短い原稿をスタック#2 にスタックしようとしても、スタック #2 の位置には届かず、うまくいきません。

- 6 インチ未満の原稿では、短原稿インサートを使用することで、スタック #1 へのスタッキングをより確実に行うことができます。

## パッチコード付き原稿区切りの選別




パッチコード付き原稿区切りシート（またはカラートグルパッチシート）をその他の原稿と選別する場合、スタッキングを次のように設定します。

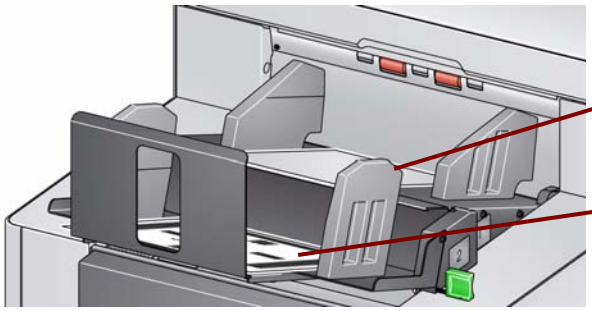
**検出された原稿を入れるスタック**：

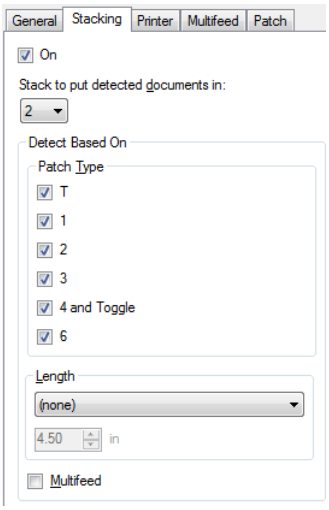
**2**（スタック #2）

*検出基準*：*パッチタイプ*オプションに、1 つ以上のパッチタイプを設定します。

原稿区切り用に挿入されたパッチ付き原稿は、通常では大量に注文されるか、要求に応じて印刷されます。管理デュアルスタッキングでは、作業に役立つ硬い紙を検出し、この用紙にパッチ付き原稿を印刷します。これにより、選別とスタッキングがより確実にできるようになります。

## 選択した原稿の選別




選択した原稿をスタックから（1 万ドルを超える請求書など）選別する場合、スタッキングを次のように設定します。

**検出された原稿を入れるスタック**：

**2**（スタック #2）

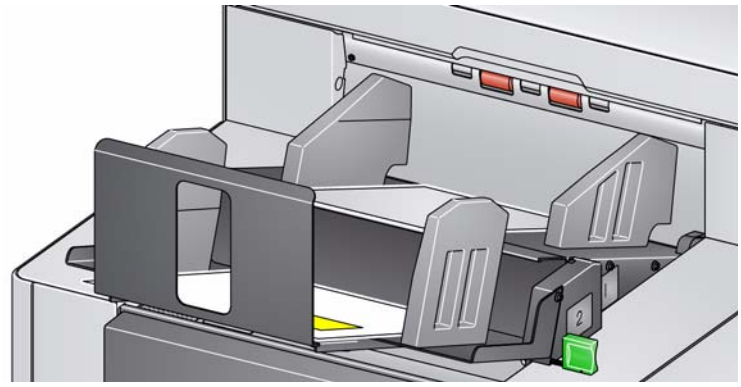
*検出基準*：*パッチタイプ*オプションに、1 つ以上のパッチタイプを設定します。

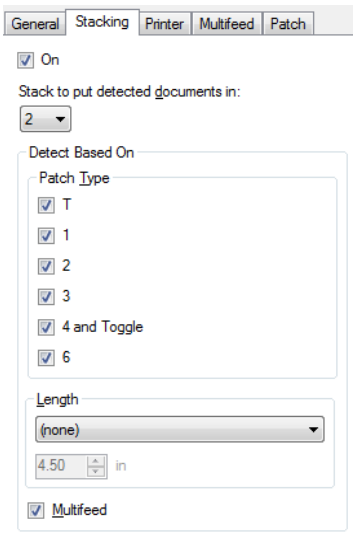
スキャナーのタッチスクリーンにある**デュアルスタッキング トグルパッチ**をドキュメントセパレーションに特定されていないパッチの種類に設定します（パッチ 6 など）。

ドキュメントの準備中、パッチシートは、選別するドキュメントの前後にを挿入します。

スキャン後、パッチシートと原稿はスタック #2 に出力されます。

## 重送アラーム原稿の選別






重送アラームを作動させた原稿を選別する場合、スタッキングを次のように設定します。

**検出された原稿を入れるスタック**：

**2**（スタック #2）

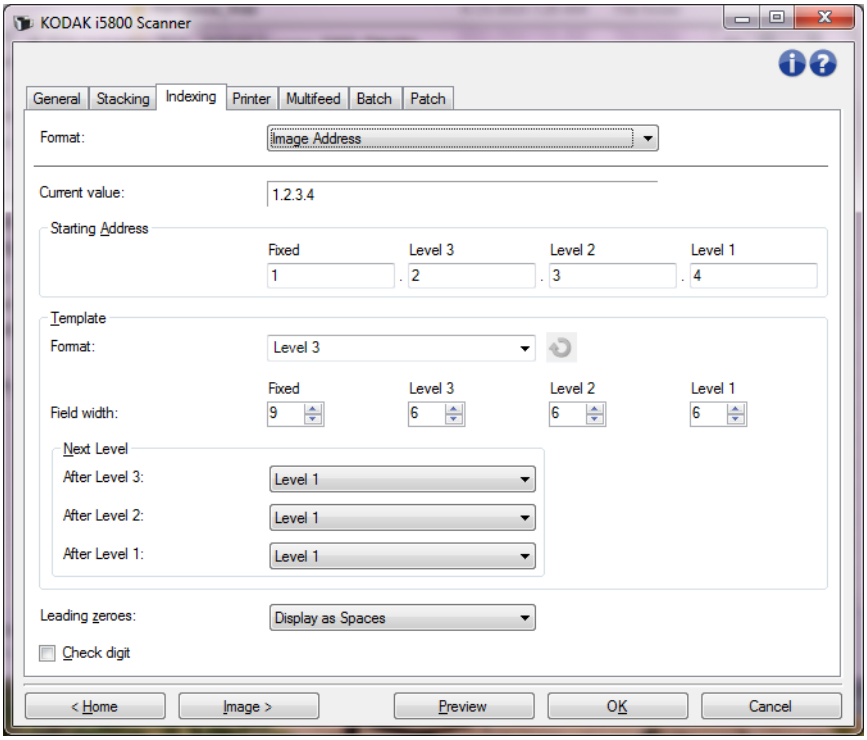
*検出基準*：*重送*オプションを設定します。

重送により例外スタッキングを作動させると、機能がさらに増えます。たとえば、スタック #2 で重送アラームを作動させるようなスタッキング原稿は、比較的厚い原稿を選別する方法になり得ます。サイズやパッチではこのような原稿を選別できません。

注：**最大長の許可**を優先にしても、管理デュアルスタッキングの長さ保護は無効になりません。

**デバイス - [インデックス] タブ - i5850 スキャナーのみ**

インデックスは、ドキュメントのトラッキング、バッチコントロール、およびイメージ管理に使用されます。このタブでの選択の設定に基づき、インデックスは増加します。

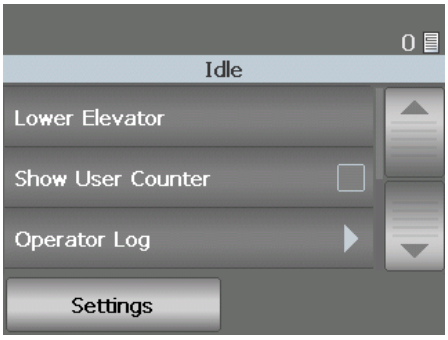



*Kodak* i5850スキャナーには、イメージアドレス機能搭載のスキャナーでこれまで利用できなかった新しいオプションがあります。i5850スキャナーでは、スキャナードライバによりスキャナーに有効なインデックスがあるかどうかをコントロールすることができます。インデックスを **[ なし ]** に設定した場合、インデックスカウンタ値はスキャナーのオペレータコントロールパネルに表示されません。

**インデックス - 有効**




**インデックス - 有効になっていません**




注：オペレータコントロールパネルは、ジョブを開始するまで変更されません。

**形式**

- **（なし）**
- **イメージアドレス**：イメージアドレスの始点を設定できます。このタブで設定したイメージアドレスルールに基づき、イメージアドレスは増加します。

  注：**[ イメージアドレス ]** が [ インデックス ] タブで *形式*として選択されている場合、[ パッチ ] タブのオプションを利用できます。

*[ 形式 ]* 選択が **[ イメージアドレス ]** の場合、以下のオプションが利用できます。

**現在の値** - スキャナーの現在のイメージ アドレスを表示します。この値はスキャンされた次のドキュメントに割り当てられる次のイメージアドレスとして使用されます。

注：この値はスキャナーのオペレータコントロールパネルの [ 情報 ] 画面に表示されます。

**開始アドレス** - *現在の値*に上書きするイメージの開始アドレスを入力できます。有効なフィールドごとに、入力可能な最大文字数を上限に、値を入力します。有効なフィールドの数、フィールドの種類、フィールドごとに入力可能な文字数は、[ テンプレート ] 設定の *[ 形式 ]* および *[ フィールドの幅 ]*（以下を参照）に基づきます。

**テンプレート**

- **フォーマット**：イメージアドレス形式を選択できます。下記の例は有効なフィールドを示します。
  - **固定**：固定
  - **レベル 3**：固定。レベル 3。レベル 2。レベル 1
  - **レベル 2**：固定。レベル 2。レベル 1
  - **レベル 1**：固定。レベル 1
  - **Level 3 オフセット**：固定。レベル 3。レベル 2
  - **Level 2 オフセット**：固定。レベル 2

注：

- *[ 形式 ]* の項目を選択すると、*[ フィールドの幅 ]* および *[ 次のレベル ]* 設定は自動的にその形式のデフォルトに設定されます。
- *[ フィールドの幅 ]* または *[ 次のレベル ]* の設定に変更を加えた場合、形式には *<[ 変更済み ]>* というテキストが追加され、名前が斜体で表示されます（** レベル 3 <[ 変更済み ]>* など）。

- **リセット**：形式への変更を元に戻すことができます。これは、フォーマットを変更した場合にのみ利用できます（例：斜体で *<CSOFT1changedCSOFT2>* というテキスト付きの場合）。
- **フィールドの幅** - 各フィールドの幅を **1 ～ 9** までの範囲で設定できます。ただし、すべてのフィールドの幅の合計は 27 以下でなければなりません。したがって、フィールドの幅は「9」以下の値に制限されます。
- **次のレベル**：次のドキュメントに割り当てられるレベルです。
  - **レベル 3 の後**：レベル 3 のドキュメント以降のドキュメントに割り当てられるレベルを選択できます。
  - **レベル 2 の後**：レベル 2 のドキュメント以降のドキュメントに割り当てられるレベルを選択できます。
  - **レベル 1 の後**：レベル 1 のドキュメント以降のドキュメントに割り当てられるレベルを選択できます。

  上記の 3 つのオプションは、[ レベル 1]、[ レベル 2]、および [ レベル 3] です。ただし、有効なオプションはイメージアドレス形式に基づきます。たとえば、*[ 形式 ]* にフィールドと同じレベル 3 が選択されていない場合、*[ レベル 3]* は使用できません。

  注：スキャン中、ドキュメントはパッチシートを挿入するか（[ パッチ ] タブ から有効になります）、スキャナのタッチ画面でフィールドレベルを選択することにより、レベルを割り当てることもできます。詳細については、スキャナに付属の『ユーザーガイド』を参照してください。

**ゼロ付き** - 幅の値がフィールド幅以下の場合、レベルアドレスフィールドの形式を設定できます（例ではフィールド幅が 3、イメージアドレスが A.3.2.1 です）。

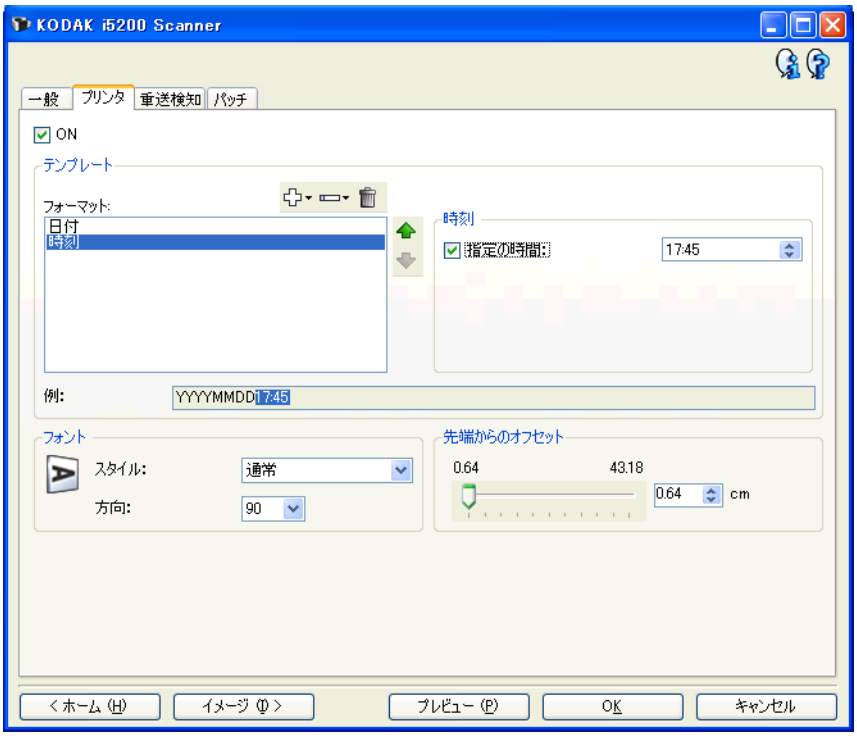
- **表示**（例：A.003.002.001）
- **表示しない**（例：A.3.2.1）
- **スペースとして表示**（例：A. 3. 2. 1）

**チェックデジット** - 選択すると、1 文字がイメージ アドレス文字列に追加されます。チェックデジットの文字は、イメージ アドレス文字列の文字の値から決定されます。詳細については、テクニカルサポートにご連絡ください。

## デバイス - [ プリンタ ] タブ

拡張プリンタには搬送方向に対し平行に印刷することができる機能があり、英数字、日付、イメージアドレス、時刻、ドキュメント数（ナンバリング）、独自のメッセージがサポートされています。印刷情報はドキュメントごとにすべてドキュメントヘッダレコードに取り込まれます。

注：このタブは、オプションのプリンタが取付け済みの場合のみ表示されます。




**ON** - プリンタを有効にして、このタブの他のオプションを有効にします。

注：スキャナーのタッチスクリーンから、印字の優先処理もできます。

**設定するレベル** - 特定の印字文字列を印字するドキュメントのレベルを選択します。たとえば、3 つのレベルイメージアドレスを使用する場合、レベル 3 の原稿に日付を印刷し、レベル 2 には何も印刷せず、レベル 1 にドキュメント数を印刷できます。すべてのレベルに対して印字文字列を同一にする場合、**すべてのレベルが一致**を選択します。

注：このオプションは、[*形式*] が [ インデックス ] タブでイメージアドレスに設定されている場合にのみ利用できます。

**テンプレート : フォーマット** - 印字文字列を定義できます。印字文字列の最大文字数は 40 文字です（スペースを含む）。

**[ ツールバー ] ボタン**

| | |
|---|---|
|  | **追加**：印字文字列に追加する項目リストを表示します。項目を 1 つ選択すると、その項目は *[ 形式 ]* リストの最後に表示されます。 |
|  | **変更**：[ フォーマット ] リスト内で現在選択されている項目を、表示されているそのリスト中の項目のいずれかと変更できます。 |
|  | **削除**：現在選択されている項目を [ フォーマット ] リストから削除できます。 |

注：印字文字列を構成する場合、40 文字の制限に適合する項目だけを *[ 追加 ]* および *[ 削除 ]* リストから使用できます。

**項目** - 項目が選択されると、関連付けられたオプションはすべて [ フォーマット ] リスト**の右側に表示されます。**

- **カウンタ**：これは、スキャンセッションのカウンタです。この値はスキャナーにより順次増え、イメージヘッダに送られます。
  - **開始値**：次にスキャンされる原稿の枚数を設定できます。

    注：この値を変更すると、[ デバイス - 一般 ] タブの **[ シートカウンタ ]** オプションに影響が及びます。

  - **フィールドの桁数**：カウンタの桁数を 1 ～ 9 の範囲で設定できます。たとえば印刷文字列が 6 文字しか残っていない場合は、フィールドも 6 文字に制限されます。
  - **ゼロ付き**：幅の値がフィールド幅以下の場合、カウンタの形式を設定できます（例ではフィールド幅が 3、カウンタが 4 です）。次のオプションがあります。
    **表示** ：“004”
    **表示しない**：“4”
    **スペースとして表示**：“ 4”
- **日付**
  - **フォーマット**：
    **MMDDYYYY**
    **DDMMYYYY**
    **YYYYMMDD**
    **DDD (Julian)**
    **YYYYDDD（ユリアン日付）**
  - **区切り記号**：（例は YYYYMMDD の場合です）
    **なし**
    **スラッシュ**：2010/08/24
    **ハイフン**：2010-08-24
    **ピリオド**：2010.08.24
    **スペース**：2010 08 24
  - **指定の日付**：スキャナーの現在の日付を使用しない場合は、特定の日付を選択できます。

- **時刻**：HH:MM 形式です。
  - **指定の時刻**：スキャナーの現在の時刻を使用しない場合は、特定の時刻を選択できます。
  - **スペース**：スペースを追加します。
  - **イメージアドレス**：**固定およびイメージアドレス**：**レベル**：これらは [ インデックス ] タブで定義されます。現在定義されているレベルのみ使用できます。

    注：このオプションは、[*形式*] が [ インデックス ] タブでイメージアドレスに設定されている場合にのみ利用できます。

  - **メッセージ**：印字文字列にカスタムテキストを指定できます。（スペースを含めて）最大 40 文字まで指定できます。

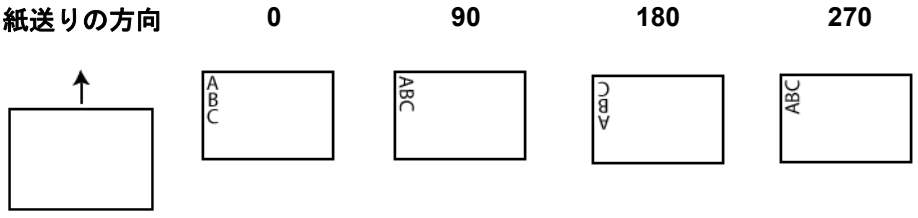
    注：日本語を正しく表示するには、Microsoft Global IME 5.01 for Japanese - with Language Pack, English Language Version のインストールによって設定された MS ゴシックをフォントに使用する必要があります。これは、www.microsoft.com/msdownload/iebuild/ime5_win32/en/ime5_win32.htm. で入手できます。

- **例** - 印字文字列がどのように表示されるか例を表示します。[ フォーマット ] リストで項目を選択すると、例で該当するポーションが強調表示されます。
- **フォント** - 印字フォントを選択できます。
  - **スタイル**：使用できる文字の書式は、**標準、太字、極太**。




**[ 標準 ]：90 度回転　　太字：90 度回転　　極太：90 度回転**

  - **方向**：文字を縦方向（原稿の先端から開始）に印字する場合、印字文字列の方向を選択できます。利用できるオプションは、**0, 90, 180, 270**.



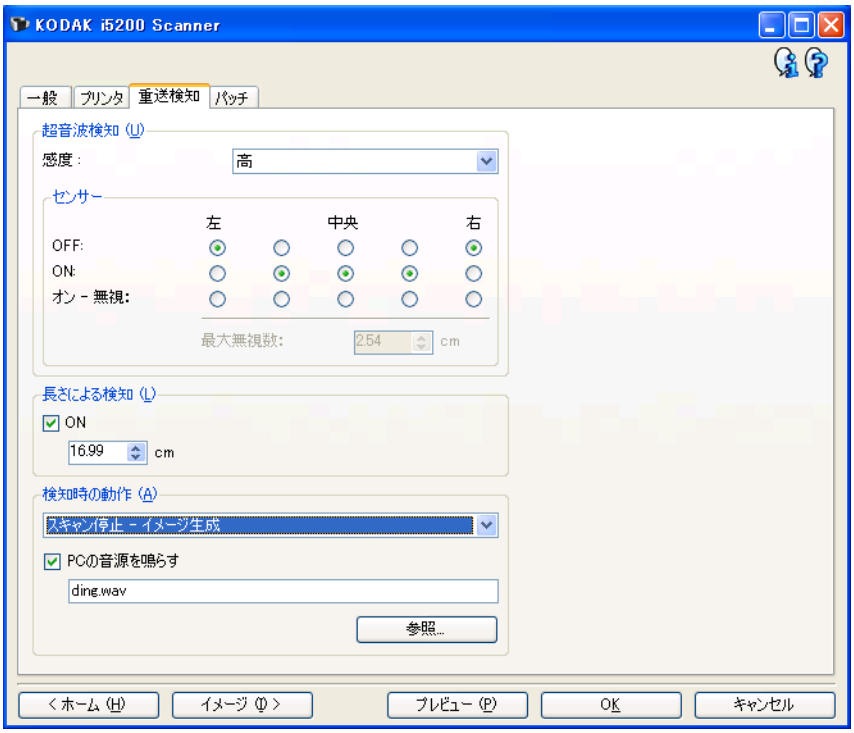
**先端からのオフセット** - 値を選択して、情報が原稿の先端からどれくらい離れて印字されるか決定します。

注：

- 情報がすべて印字されていなくても、印字はドキュメントの後端のエッジから 6.3 mm（1/4 インチ）のところで自動的に停止します。
- 横印字位置は、スキャナー内のプリントカートリッジの場所により決まります。印字位置の設定についての詳細はユーザーズガイドを参照ください。
- 先端からのオフセットも、スキャナーのタッチスクリーンで無効にすることができます。

## デバイス - [ 重送検知 ] タブ

重送検知機能は、原稿が重なった状態で給紙された時点で重送を検知します。重送はホッチキスで綴じられた原稿、原稿への粘着物、または静電気を帯びている原稿が原因で生じます。




### 超音波検知

**感度** - 複数の原稿が重なった状態で送られたかどうかを検知する度合いを指定します。重送は、原稿とのすきまを検出することにより、識別されます。そのため、厚さの異なる原稿が混在しているような場合でも、重送を検知することができます。

- **（なし）**
- **低**：レベルが低い設定で、ラベルを貼った原稿、紙質の悪い原稿、皺がある原稿を重送として認識する可能性が最も低くなります。
- **中**：厚さが異なる原稿や、ラベルが貼られた原稿をスキャンする場合に使用します。ラベルの材質にもよりますが、大部分のラベルは重送とは認識されません。
- **高**：最もレベルが高い設定です。この設定は、すべての原稿が 75.2 g/m$^2$（20 ポンド）以下のボンド紙である場合など、厚さが同じ原稿をスキャンする場合に適しています。

  注：設定の内容に関係なく、「貼付された」メモは重送として検知されます。

**センサ** - 5 つのセンサが搬送路の幅をカバーします。重送書類が正しく検知されるためには、これらのセンサの下を通過しなければなりません。

- **左**から**右**：5ヶ所から有効にするセンサを選択できます。たとえば、書類の左側にメモが「貼付」されている場合、左のセンサをオフにできます。
- **最大無視数**：入力した値まで重送を無視します。このオプションは重送検知センサを完全に無効にすることなく重送を許可したい場合に便利です（例：3 インチ（約 7.6 cm）の付箋）。

  注：
  - このオプションを使用するには1つ以上のセンサを**オン - 無視**に設定する必要があります。
  - この長さは**オン - 無視**に設定されているすべてのセンサに適用されます。

**長さによる検知** - ジョブ設定で原稿の最大の長さを選択できます。スキャナーがこの値より長いドキュメントを探知した場合、重送が発生したと判定します。このオプションは**無効**または、長さを設定できます。

**検知時の動作** - 重送検知時のスキャナーの動作を選択します。オプションに関係なく、状態はスキャナーのログに記録されます。

- **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。搬送部に原稿が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。重送原稿は排紙されます。重送イメージはホストアプリケーションには送信されません。
- **スキャン停止 - イメージ生成**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。重送書類のイメージが生成されます。搬送部に原稿が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。重送原稿は排紙されます。
- **スキャンの停止 - 用紙を搬送部に残す**：スキャンを直ちに停止し（搬送路はクリアされません）、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。搬送路から原稿を取り除き、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。重送イメージはホストアプリケーションには送信されません。
- **スキャンの続行**：スキャナーがスキャンを継続します。スキャナーはユーザーが重送用に設定した音を鳴らします。
- **スキャン一時停止**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。スキャナーの **[ 開始 / 再開 ]** ボタンを押すと、スキャンが再開します。スキャナーの **[停止 / 一時停止 ]** ボタンを押すか、スキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。スキャナーはユーザーが重送用に設定した音を鳴らします。

このオプションを使用すれば、スキャンしたページのプレビューイメージを点検し、スキャンしたイメージの**承認**、またはそのページの**再スキャン**するかを選択して、重送アラームを作動させたスキャンのイメージを破棄することができます。スキャンしたイメージは承認されるまでホストアプリケーションには送信されません。このオプションにより、すべての重送イベントをスキャナーで処理できます。スキャンアプリケーションでイメージ操作は必要ありません。このオプションより、スキャナの前にいるだけで、無駄な動作を削減し、あまり疲れることはありません。**このオプションはスキャナが実行します。スキャンアプリケーションを変更する必要はありません**。




注：スキャナーファームウェアのバージョンが 3.9.1 以上の場合、**スキャン一時停止**の重送アクションを使用すると、このオプションが、自動的に有効になります。

プレビューイメージは、TWAIN データソースで選択したイメージ処理設定（90 度回転など）に応じて回転します。スキャンアプリケーションがイメージを回転している場合、またはその他のイメージ処理を実行している場合、プレビューイメージにはスキャンイメージ処理が適用されません。

- 両面（表面と裏面）スキャンの場合は、両方のイメージが表示されます。
- 白黒スキャンの場合は、白黒のイメージが表示されます。
- カラー／グレースケールスキャンの場合は、カラー／グレースケールのイメージが表示されます。
- デュアルストリームスキャンの場合は、カラー／グレースケールのイメージが表示されます。
- VRS ソフトウェアによる白黒スキャンの場合は、グレースケールのイメージが表示されます。

- **イメージの承認**：イメージを承認する場合は、オペレータコントロールパネルで **[ 承認 ]** を選択するか、スキャナーの **[ 開始／再開 ]** ボタンを押します。**[ 承認 ]** を選択すると、スキャナーのプレビューに表示されたイメージがすぐにスキャンアプリケーションに送信され、スキャンが続行されます。

- **ページの再スキャン**：ページの再スキャンが必要な場合は、出力トレイから一番上の原稿を取り除いて、入力トレイに戻します（原稿の準備の問題は解決してください）。ページを再スキャンする準備が整ったら、オペレータコントロールパネルの **[ 再スキャン ]** をタッチします。プレビューイメージは破棄されます。印刷が有効でない場合、スキャナーはすぐにスキャンを開始します。印刷が有効になっている場合、スキャナーには ［停止］画面が表示され、スキャンされた次のページの **［印刷をスキップ］** が選択できます。その後、スキャナーの **［開始 / 再開］** ボタンを押して、スキャンを続行します。

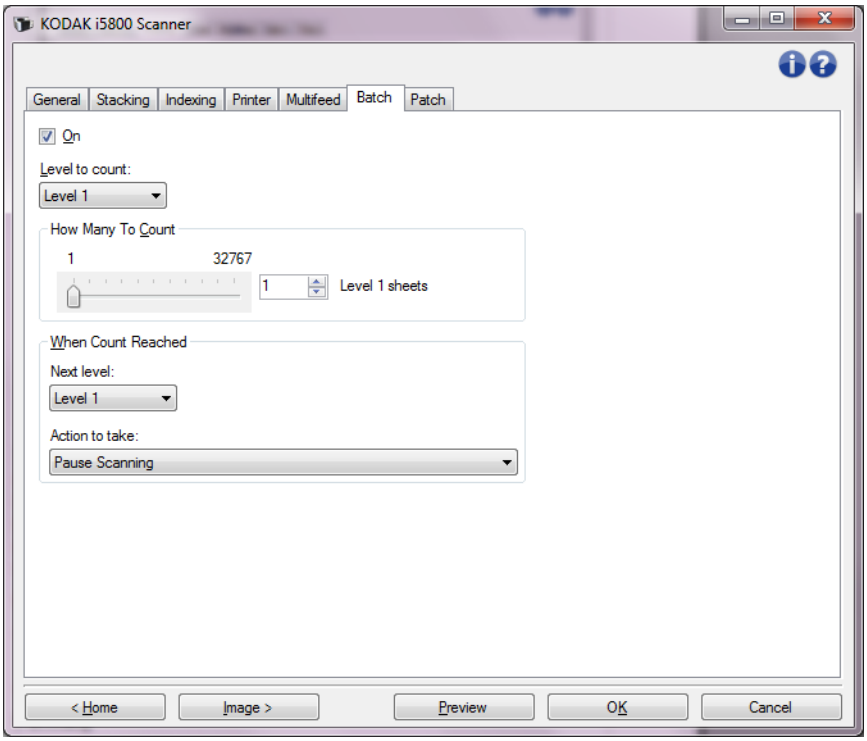
**PC の音源を鳴らす** - 重送検知時に PC から音を鳴らす場合、このオプションを選択します。**[ 参照 ]** ボタンをクリックして、再生する .wav ファイルを選択できます。

注：コンピュータの音源は、スキャナーの重送検出時と同時に鳴らない場合があります。

## デバイス - [ バッチ ] タブ

バッチは、ページ／ドキュメント数をカウントする作業です。

注：このタブは、スキャナーがイメージアドレスモードになっている場合に使用できます。




**オン** - バッチ処理をオンにして、このタブの他のオプションを有効にします。

**カウント レベル** - カウントするレベルを設定します。オプションは、**[ レベル 1]**、**[ レベル 2]**、および **[ レベル 3]** です。

注：カウントするレベルは、[ インデックス ] タブで定義されているイメージアドレステンプレート内になければなりません。

**カウント数** - カウントに到達したら、操作を実行する前にカウントするドキュメントの枚数を定義します。

**指定枚数に達している場合**

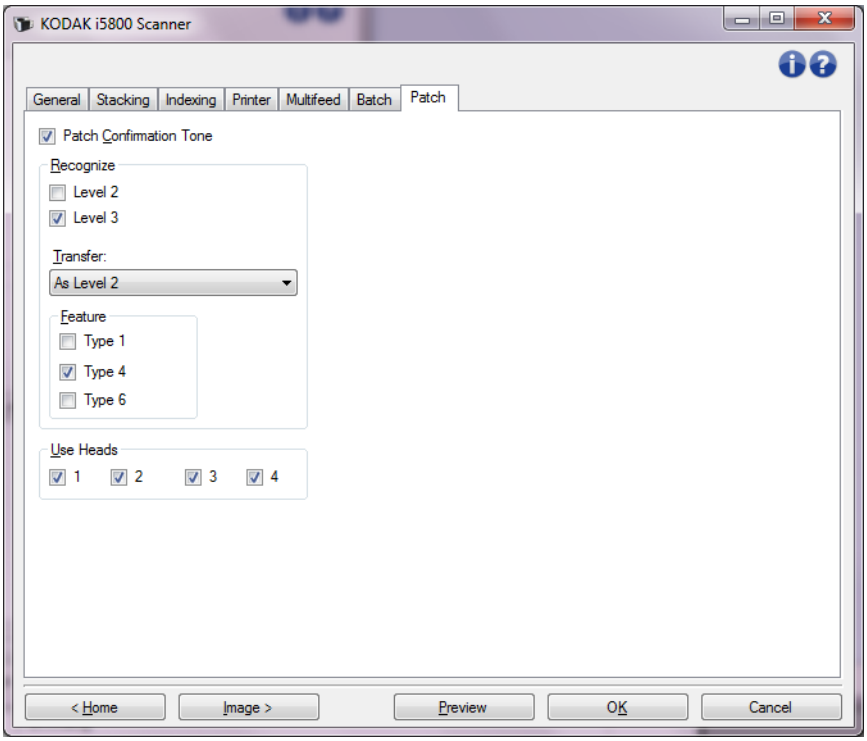
- **次のレベル**：カウントが指定枚数に達した後次のドキュメントへのレベルを定義します。次のオプションがあります。**（なし）**、**[ レベル 1]**、**[ レベル 2]**、および **[ レベル 3]** です。

  注：カウントするレベルは、[ インデックス ] タブで定義されているイメージアドレステンプレート内になければなりません。

- **実行するアクション**：バッチ処理の最後のドキュメントを処理した後に実行するアクションを定義します。
  - **スキャン一時停止**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。タッチ画面の **[再開]** をタッチするとスキャンが再開します。タッチ画面の **[ ジョブの終了 ]** をタッチして、またはスキャンプリケーションからスキャンを終了できます。
  - **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。スキャンアプリケーションからスキャンセッションを再開します。
  - **スキャンを続行してカウントを再開**：スキャナがスキャンを続行し、*[カウント数]* をリセットすると新しいバッチが自動的に開始されます。

## デバイス - [ パッチ ] タブ

パッチリーダーはあらかじめ定義されたパッチコードを自動的に感知し、ドキュメントのレベル変更を制御するために設定できます。詳細については、『ユーザーズガイド』の*第 6 章「パッチの読み取り」*を参照してください。




**パッチ確認トーン** - パッチが認識されたことを通知するために確認トーンを使用できます。デフォルトでは確認トーンはありません。

**認識** - 認識するパッチの種類を選択します。

- **レベル 2**: レベル 2 を現在のドキュメント（パッチが付いているドキュメント、またはレベル 2 パッチ シートのいずれの場合でも）に割り当てます。
- **レベル 3**: レベル 3 を現在のドキュメント（パッチが付いているドキュメント、またはレベル 3 パッチ シートのいずれの場合でも）に割り当てます。

**トランスファー**：次のドキュメントにレベルを割り当てます（トランスファーパッチシートの後）。

- **なし**：トランスファーパッチを認識しない場合にこのオプションを選択します。
- **レベル 2 として認識**
- **レベル 3 として認識**

注：トランスファーパッチはレベル 0 として処理されます。

**機能**

- **パッチ タイプ 1、4、および 6**：これらのパッチ タイプは、スキャン後のイメージ コントロールの場合にスキャン アプリケーションによって使用されます ( インデックスの作成には使用しません )。たとえば、これらのパッチタイプを、白黒スキャンとカラー / グレースケールイメージングの切り替えやワークフロー制御のために使用します。

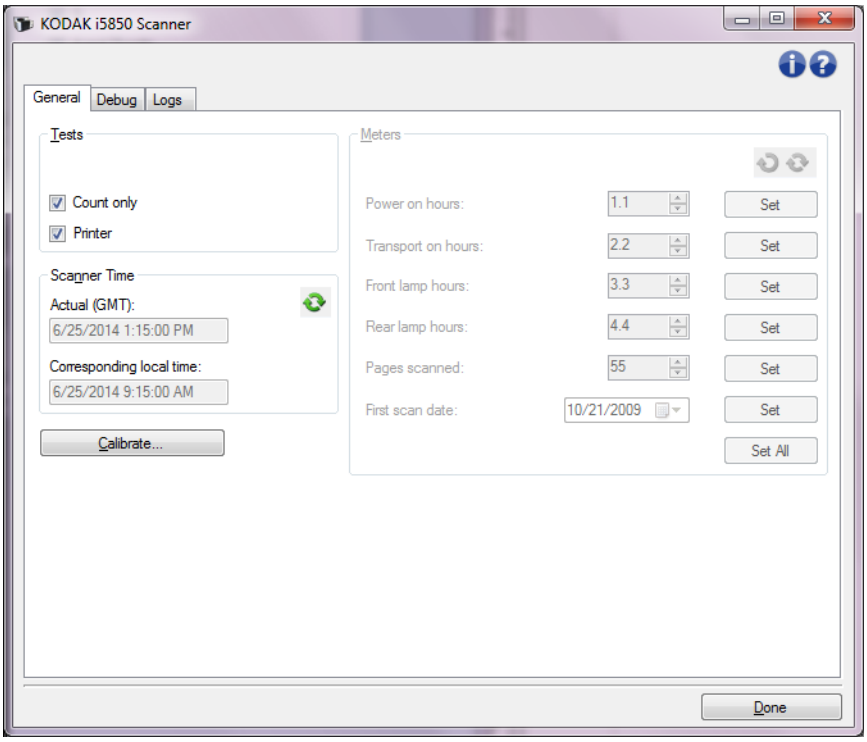
  注：このオプションは、スキャナーがインデックスモードの場合にのみ利用できます。

**ヘッドの使用** - 使用するパッチ ヘッド / リーダーを選択します。各パッチヘッド / リーダーは個別にオン / オフに設定できます。デフォルトでは、すべてのパッチヘッド／リーダがオンになります。

注：このオプションは、スキャナーがインデックスモードの場合にのみ利用できます。

## [ 診断 ] ウィンドウ

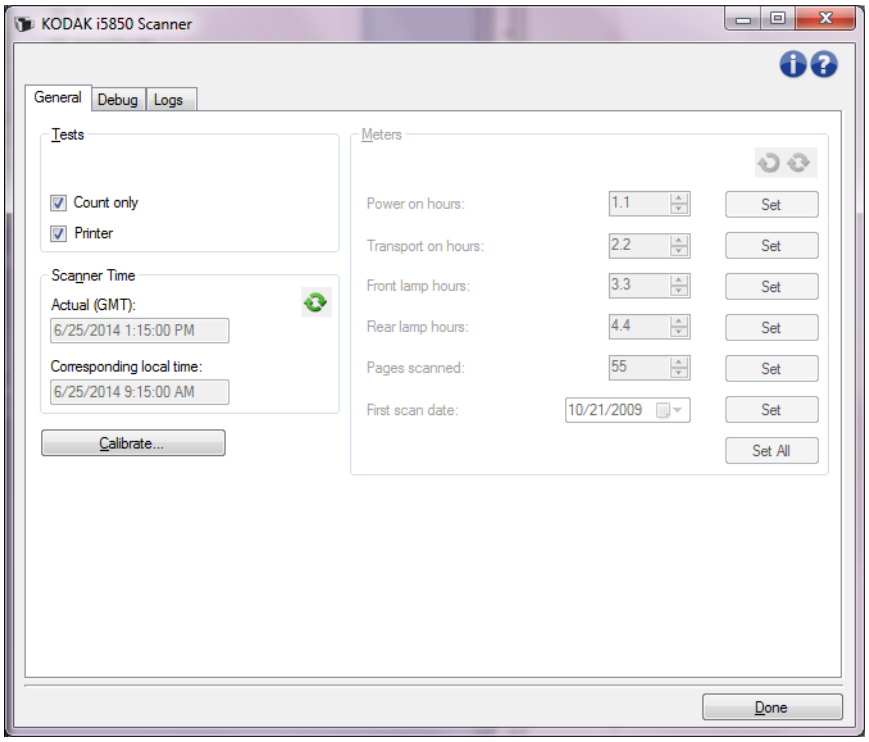
このウィンドウではスキャナーの診断機能が使用できます [ 診断 ] ウィンドウには [ 一般 ]、[ デバッグ ]、[ ログ ] のタブがあります。[ 診断 ] ウィンドウは、[ デバイス設定 ] ウィンドウの [ 一般 ] タブにある [ 診断 ] ボタンからアクセスできます。




**完了** - [ デバイス設定 ] ウィンドウに戻ります。

## 診断 - [ 一般 ] タブ

[ 一般 ] タブでは、スキャナーのテストや、スキャナー時刻の確認ができます。




### テスト

- **カウントオンリー** - スキャンアプリケーションにイメージを送信せずにスキャナーに入る原稿の枚数を数えます。このテストは、オプション有効時のスキャンセッション中に実行します。
- **プリンタ** - すべてのインクジェットが機能しているかなど、プリンタの機能をテストします。このテストは、オプション有効時のスキャンセッション中に実行します。

  注：**カウントオンリー**および**プリンタ**テストは、スキャンアプリケーションがスキャナーから切断されると、自動的に終了します。

### スキャナー時刻

- **標準時 (GMT)**：スキャナーのグリニッジ標準時間を表示します。
- **対応する現地時刻**：スキャナーのグリニッジ標準時間をコンピュータの現地時間帯で表示します。

: **更新**：スキャナーの現在の時刻を再表示します。

**キャリブレーション** - [キャリブレーション] ウィンドウを表示します。このウィンドウからイメージまたは超音波キャリブレーションを実行できます。

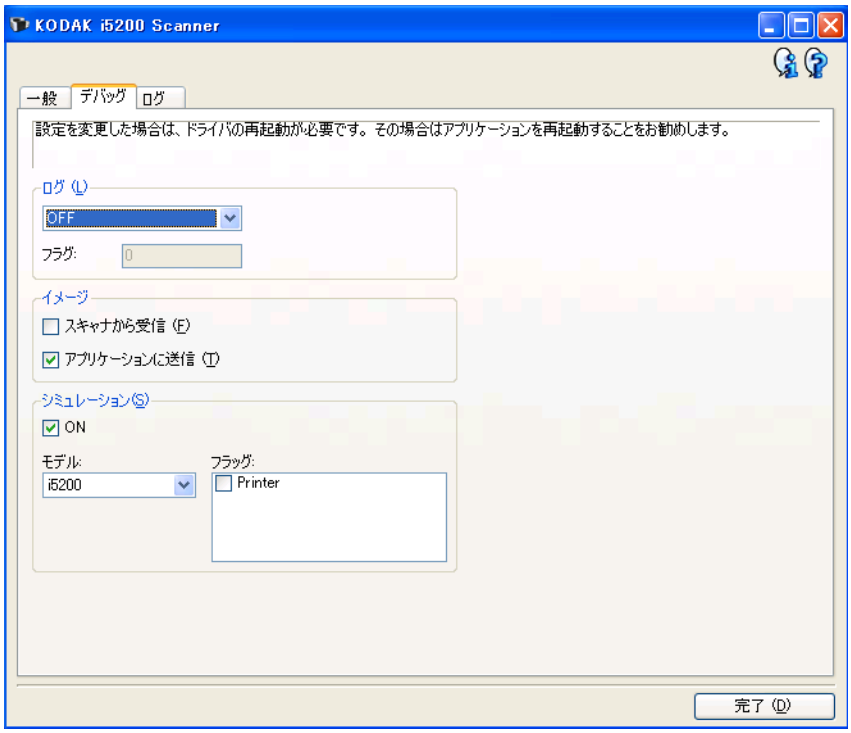
注：キャリブレーションは頻繁に行う必要はなく、また、お勧めもしません。テクニカルサポートの指示があった場合にのみキャリブレーションを実行します。

## 診断 - [ デバッグ ] タブ

[ デバッグ ] タブは、スキャナーを使用中に発生した問題を診断するのに役立つオプションが使用できます。このタブは、テクニカルサポートから指示がある場合のみ使用してください。

注：

- このタブにあるすべてのオプションは、現在選択されている設定のショートカットだけでなく、すべての設定のショートカットに適用され、即座に保存されます。
- このタブでの変更を有効にするには、アプリケーションを再起動する必要があります。




**ログ** - スキャナーとスキャンアプリケーションの間で行われた通信を保存します。オプションは、**[OFF]**、**[ON]**、**[ カスタム ]** が用意されています。

**イメージ**

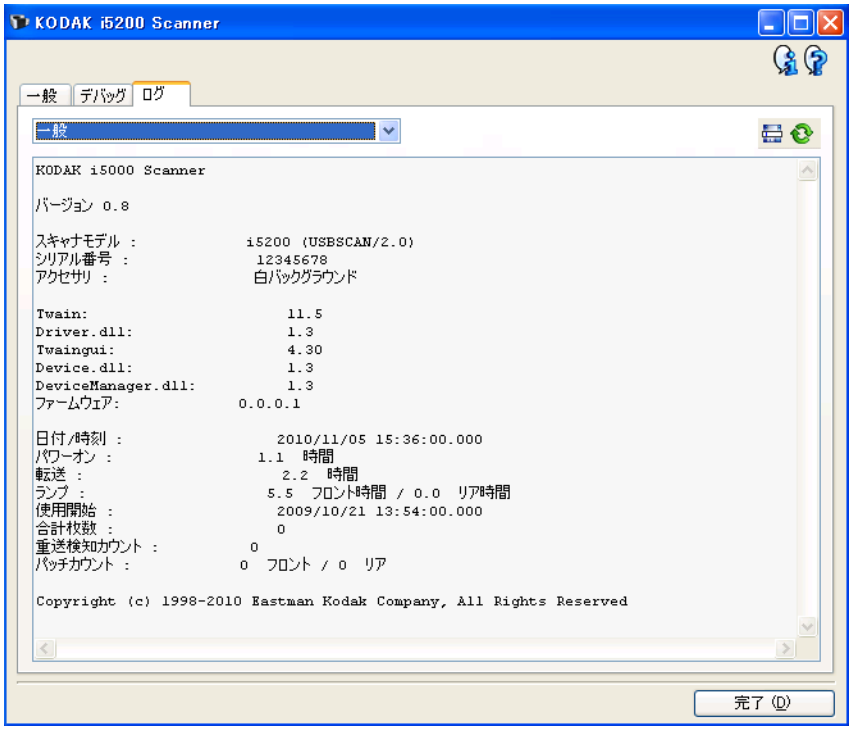
- **スキャナーから受信**：コンピュータがスキャナーから受信したイメージを保存します。
- **アプリケーションに送信**：スキャンアプリケーションがスキャナーから受信したイメージを保存します。

**シミュレーション** - 実際にスキャナーを使用しないで TWAIN ドライバ／データソースを使用できます。

- **モデル**：シミュレートするスキャナーのモデルを指定できます。
- **フラグ**：お使いの TWAIN ドライバ / データソースがこのオプションをサポートしている場合、シミュレートするスキャナーにインストールされているアクセサリのリストが表示されます。

## 診断 - [ ログ ] タブ

[ ログ ] タブでスキャナー情報が表示されます。




### ログ

- **一般**：スキャナーのバージョン情報、シリアル番号、インストール済みアクセサリ、メーターなどが表示されます。
- **オペレータ**：スキャナーのログが表示されます。このログは Kodak サポート担当によってのみクリアされます。

### [ ツールバー ] ボタン

**名前を付けて保存**：すべてのログを保存し、Kodak サポート担当が閲覧します。選択すると [ 名前を付けて保存 ] ウィンドウが表示されます。

- **説明**：ログを保存する問題 / 理由の簡単な説明を入力します。
- **フォルダ**：ログの保存先です。
- **参照**：OS の [ ファイルを開く ] ウィンドウが表示され、使用するフォルダを検索できます。
- **デバッグイメージを含む**：生成されたデバッグイメージをログと共に保存します。このオプションはデフォルトで有効になっています。サポート担当者から指示された場合のみ無効にしてください。
- **保存**：拡張子 .eklog でログファイルを保存します。

**更新**：現在表示されているログを更新します。

Kodak Alaris Inc.
2400 Mount Read Blvd.
Rochester, NY 14615

© 2014 Kodak Alaris Inc.
All rights reserved.
コダックの商標およびトレードドレスはイーストマンコダック社の許可を受けて使用しています。